たかしまの町を良くするけいかく。

高島市共同募金改革
アクションプラン

期間：平成２５（2013）年度～平成２７（2015）年度

高島市共同募金委員会　共同募金改革検討委員会

平成２５年３月

（平成 26（2014）年６月　特別編集版）

もくじ

はじめに

１．高島市共同募金委員会・共同募金改革検討委員会について

Ⅰ高島市共同募金委員会設置のあしあと

Ⅱ高島市共同募金委員会の組織体制

Ⅲ高島市共同募金改革検討委員会の位置づけ

２．高島市共同募金改革アクションプラン

Ⅰ高島市共同募金改革アクションプラン（平成 25 年度～平成 27 年度）
①募　金
②助　成
③広　報

Ⅱ高島市共同募金改革アクションプラン策定の経緯
①赤い羽根全国ミーティング in 小浜視察（第２回高島市共同募金改革検討委員会）
（平成 24 年 6 月 13 日～15 日）
②第３回高島市共同募金改革検討委員会（7 月 4 日）
③第４回高島市共同募金改革検討委員会（7 月 27 日）
④高島市共同募金改革アクションプラン素案づくり臨時会議（9 月 4 日）
⑤第５回高島市共同募金改革検討委員会（平成 25 年 2 月 28 日）

３．期間拡大モデル事業「赤い羽根たかしま見守り募金」の取組みについて（報告）

Ⅰ高島市における期間拡大モデル事業の考え方

Ⅱ期間拡大モデル事業「赤い羽根たかしま見守り募金」の実施

Ⅲ期間拡大モデル事業の成果と課題

高島市共同募金改革検討委員会　委員名簿

作：ヤマモトリサコ（高島市在住）

本誌は、高島市共同募金改革検討委員会が設置された平成 24 年度に、1 年間の委員会での話し合いを元に策定された「共同募金改革アクションプラン」とそのプロセスを記録し、平成 25 年 3 月に完成したものです。

さらに今回、平成 24 年度から 25 年度に取り組んだ、期間拡大モデル事業「赤い羽根たかしま見守り募金」の実施報告を加えて、一部構成を見直し、赤い羽根全国ミーティング in たかしま（平成 26 年 6 月 26 日～27 日）の開催に合わせ、特別編集版として印刷製本したものです。

はじめに

○平成 17 年１月、６町村が合併した高島市は県内１９市町の中で２番目に高齢化率が高く、少子化も急速に進んでいます。また、一人暮らし世帯は５軒に１軒となり、少子高齢化の進行、単身世帯の増加を背景とした生活課題、福祉課題が顕在化しています。

○そのような中、高島市社会福祉協議会（以下、社協と略）では、平成２２年度から５か年計画で高島市地域福祉推進計画を策定し、広域合併市の地域福祉の方向性を再編、再整理し、小地域における見守りネットワークの推進を核とした集落福祉活動の活性化や、６地域の住民福祉活動計画を推進する住民福祉協議会の設置による多様な活動主体のネットワーク化、住民と専門職の協働による地域ケアネットワークの推進を重点的な取り組みとしました。

○また同計画において、地域福祉を推進する民間財源の増強と有効活用の推進を挙げ、社協会費や共同募金の見直しをおこなうことを示し、平成２３年度から本格的な共同募金改革に着手しました。

○これまで高島市の共同募金額の実績は、平成８年をピークに年々減少の一途を辿り、十分な対策を打てずにいましたが、平成２４年４月に専任の事務局職員を地域福祉部門（地域支援課）に配置し、５月に関係者による第１回高島市共同募金改革検討委員会を開催、８月に共同募金審査委員会の開催、翌年１月に共同募金委員会理事会を社協理事会から独立した組織体制とするなどの改革をおこないました。

○また、改革検討委員会での議論を元にした、実験的な募金手法の実施や、今まで以上に多くの住民、ボランティア、企業のご協力を得たことで、５年連続で減少してきた実績額が 0.2%とは言え僅かに上向くことができ、平成２４年度は高島市における「共同募金改革元年」と言える年となりました。

○共同募金改革の最も大きな成果は、多くの住民の参画・協働により、継続して共同募金の未来を話し合うことができる組織体制が生まれたことであり、加えて、単にお金を集めることだけが共同募金の役割ではないと言うことが確認できたことです。そして、その話し合いの成果として「共同募金改革アクションプラン」が生まれました。

○このアクションプランは、改革検討委員会において、高島市における共同募金の現状の問題を明らかにし、その具体的な改善策を明らかにすることを課題として、平成２４年６月から翌２月まで繰り返し話し合いを重ねてきた結果をとりまとめたものです。アクションプラン策定にあたっては、中央共同募金会ならびに滋賀県共同募金会、および関係各位の多大なるご支援、ご協力を得て完成できましたことに、心より深謝申し上げます。

じぶんの町を良くするしくみ。
赤い羽根共同募金

１．高島市共同募金委員会・共同募金改革検討委員会について

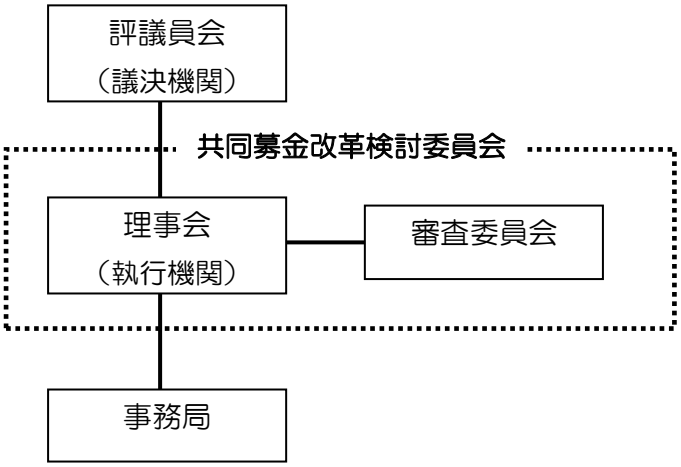
Ⅰ高島市共同募金委員会設置のあしあと

（高島市共同募金委員会への名称変更から平成 24 年度まで）

平成２２年度	
平成２３年 ３月２４日（木）	滋賀県共同募金会高島支会　平成 22 年度第３回理事会 **会則の一部改正、高島市共同募金委員会審査委員会規程の制定、**平成 23 年度事業計画ならびに資金収支予算の承認
３月２８日（月）	滋賀県共同募金会高島支会　平成 22 年度第３回評議員会 平成 23 年度事業計画ならびに資金収支予算の承認
平成２３年度	
５月２５日（水）	高島市共同募金委員会　平成 23 年度第１回理事会 平成 22 年度事業報告ならびに決算報告の承認
５月２７日（金）	高島市共同募金委員会　平成 23 年度第１回評議員会 平成 22 年度事業報告ならびに決算報告の承認
８月２６日（金）	高島市共同募金委員会　平成 23 年度第２回理事会 **高島市共同募金委員会審査委員会の選任（選出区分）**についての承認
平成２４年 ３月２３日（金）	高島市共同募金委員会　平成 23 年度第３回理事会 平成 24 年度事業計画ならびに資金収支予算の承認
３月２６日（月）	高島市共同募金委員会　平成 23 年度第３回評議員会 平成 24 年度事業計画ならびに資金収支予算の承認
平成２４年度	
４月２７日（金）	高島市共同募金委員会　平成 24 年度第１回理事会 高島市共同募金委員会助成金交付要綱の制定について承認
５月２１日（月）	**第１回共同募金改革検討委員会（審査委員会準備会）**
５月２４日（木）	高島市共同募金委員会　平成 24 年度第２回理事会 平成 23 年度事業報告ならびに決算報告　**審査委員の選任**の承認ほか
５月２９日（火）	高島市共同募金委員会　平成 24 年度第１回評議員会 平成 23 年度事業報告ならびに決算報告　**審査委員の選任**の承認ほか
６月１３日（水） ６月１４日（木） ６月１５日（金）	**第２回共同募金改革検討委員会** 「赤い羽根全国ミーティング in 小浜」参加
７月　４日（水）	**第３回共同募金改革検討委員会**
７月２７日（金）	**第４回共同募金改革検討委員会**
８月１０日（金）	**第１回審査委員会**（ボランティアグループ活動助成金、福祉関係団体等助成金）
９月　４日（火）	**平成２４年度共同募金運動に関する臨時会議**
１１月１３日（火）	**第２回審査委員会**（歳末事業実施助成金）
１１月３０日（金）	高島市共同募金委員会　平成 24 年度第３回理事会 **高島市共同募金委員会会則の一部改正（理事定数の変更および理事会の独立）**

	について承認
１２月１２日（水）	高島市共同募金委員会　平成 24 年度第２回評議員会 **次期役員の選任**について承認
１２月１４日（金）	高島市共同募金委員会　平成 24 年度第４回理事会 次期評議員の選任について承認
平成２５年 １月１５日（火）	高島市共同募金委員会　平成 24 年度第５回理事会 **会長ならびに副会長の選任**について承認
２月２８日（木）	**第５回共同募金改革検討委員会**
３月２１日（木）	高島市共同募金委員会　平成 24 年度第６回理事会 平成 25 年度事業計画ならびに資金収支予算の承認
３月２６日（火）	高島市共同募金委員会　平成 24 年度第３回評議員会 平成 25 年度事業計画ならびに資金収支予算の承認

Ⅱ高島市共同募金委員会の組織体制



Ⅲ共同募金改革検討委員会の役割

高島市共同募金改革検討委員会は、平成 23 年３月 24 日の平成 22 年度第３回理事会において、審査委員会設置規程が制定された後、同年８月の理事会において審査委員の選任区分を決定し、平成 24 年５月 21 日に審査委員会を母体に改革検討委員会が発足しました。

選出区分は６地域の住民福祉活動計画を推進する住民福祉協議会（多様な福祉活動等をおこなう住民や専門職のネットワーク組織）の代表、民生委員児童委員、ボランティア、福祉事業所の代表、共同募金委員会理事、行政職員、県共同募金会職員により構成しました。委員は、ＮＰＯや認定ファンドレイザー、子ども・若者の育成支援、災害ボランティア活動者、障がい者の生活支援、自治会長、福祉推進委員長など多様な分野で地域課題の解決に直接関わっている方々です。

現在、改革検討委員会は理事会と一体的に組織され、事業計画の立案、助成の審査等に関わり、高島市の共同募金改革における課題を検討・推進・評価していく、継続的な住民参加の委員会と位置づけています。

じぶんの町を良くするしくみ。
赤い羽根共同募金

２．高島市共同募金改革アクションプラン

Ⅰ 高島市共同募金改革アクションプラン
（平成 25 年度～平成 27 年度）

高島市における共同募金改革の基本的な視点

①多様な募金活動による住民参加を進め、共同募金への理解・共感の拡大を図ります。

- 集まった募金の約７割が、高島市の地域福祉活動に使われていることを伝えていきます。
- 助成団体（寄付を受ける側）と寄付者（募金する人）の顔の見えるつながりをつくります。

②地域の課題を明らかにして、解決のための活きたお金の使い道を考えます。

- 社協の地域福祉推進計画と連携し、解決すべき課題を明確にした募金や助成をおこないます。
- 制度のはざ間の問題など、支援の手が届きにくい問題や緊急性の高い問題にこそ、共同募金による積極的な取組みをおこないます。

③福祉学習を通して助け合う心を育み、子ども・若者への寄付意識の醸成を図ります。

- 子どもや若者が地域社会を構成する一員として、募金運動を通して福祉を学び、社会参加する機会をつくります。

④旧来の方法にとらわれない、新たな募金手法を積極的に開発します。

- 企業や団体と協働して新たな募金手法を開発し、多様な主体の参画による地域課題の解決を促進します。

⑤助成を通して活動団体の支援をおこない、協働で社会課題の解決を進めます。

- 単にお金を交付するだけではなく、助成団体の相談に乗り、地域課題を解決する力を高める支援をおこないます。

⑥寄付者の意思を大切にして、助成の透明性、公平性をさらに高めます。

- 誰もが暮しやすい地域づくりを願う寄付者のお気持ちを大切にした、透明性、公平性のある助成方法を進めます。

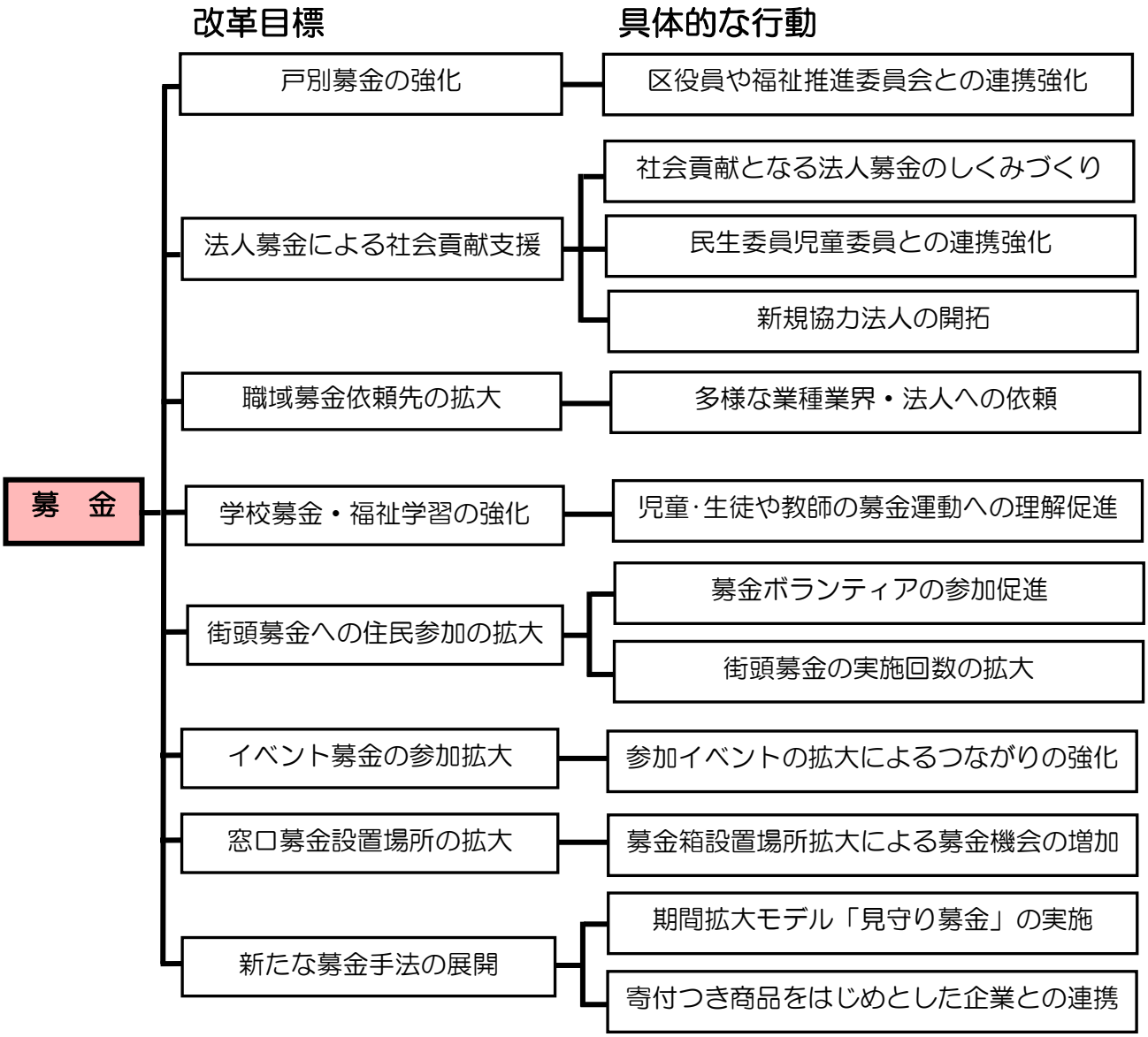
⑦助成団体とともに「ありがとう」の気持ちを住民に伝えます。

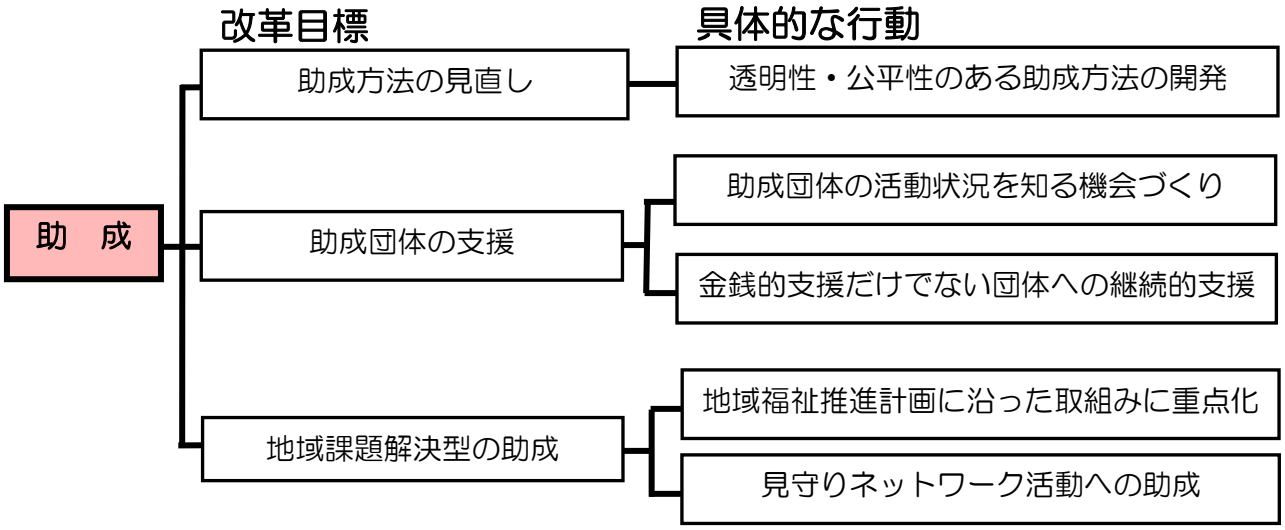
- 寄付者への感謝と共に、助成団体の活動成果が多くの住民に伝わるようにします。
- 助成団体も街頭募金などに協力していただき、住民の思いのこもったお金であることの理解を促進します。

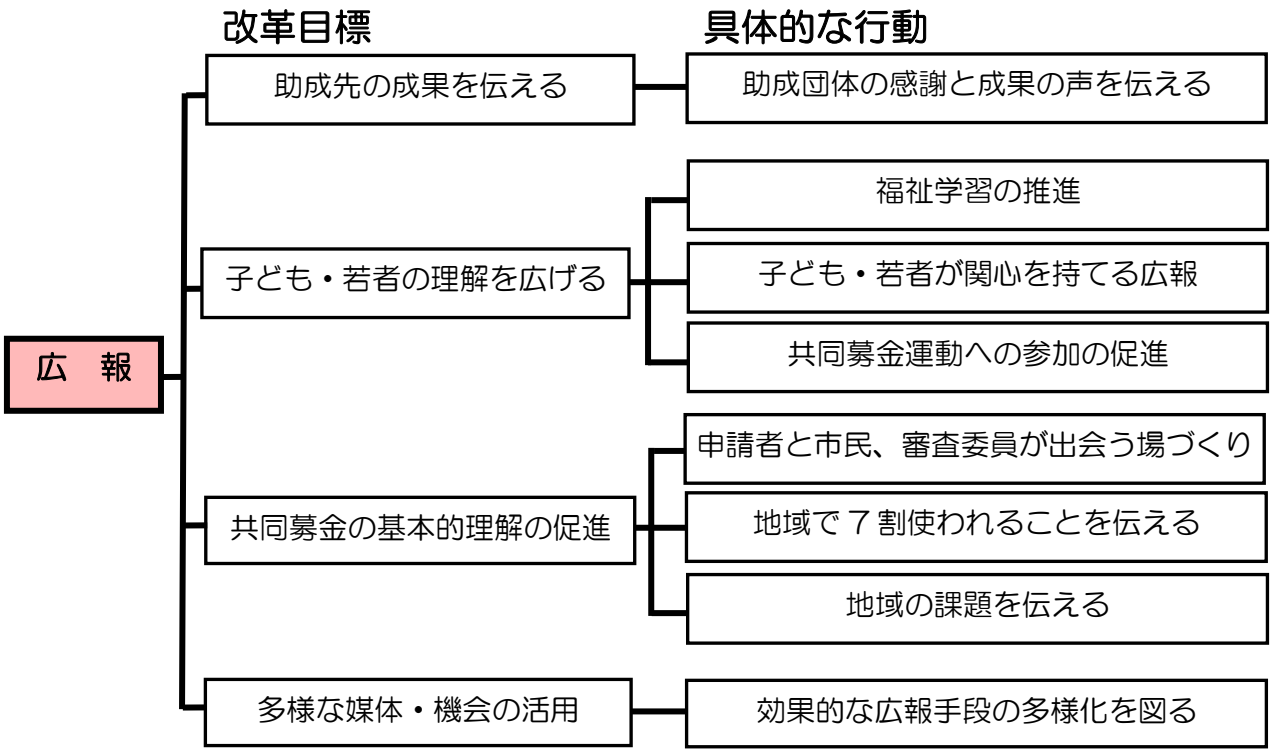
⑧住民の参加・協働による共同募金委員会を推進します。

- 地域福祉を推進する共同募金委員会として、住民参加・協働に基づく組織運営をおこないます。

アクションプラン総合体系図






改革目標
具体的な行動
広　報
助成先の成果を伝える
助成団体の感謝と成果の声を伝える
子ども・若者の理解を広げる
福祉学習の推進
子ども・若者が関心を持てる広報
共同募金運動への参加の促進
共同募金の基本的理解の促進
申請者と市民、審査委員が出会う場づくり
地域で７割使われることを伝える
地域の課題を伝える
多様な媒体・機会の活用
効果的な広報手段の多様化を図る

じぶんの町をよくする募金	
1.戸別募金の強化	
区役員や福祉推進委員会との連携強化	区・自治会役員の皆様のご理解を得られるよう、さらなる情報公開を努めます。 市民の皆様に共同募金の役割を広報し、強制感なく募金いただけるように努めます。
2.法人募金による社会貢献支援	
社会貢献となる法人募金のしくみづくり	法人募金が、地域社会の課題解決につながっていることを明確にすることで、企業、商店による社会貢献活動に直結した募金であることを明確にします。
民生委員児童委員との連携強化	法人募金の活動にご協力いただく民生委員児童委員との連携を強化し、法人募金活動への参加、協力を高めていきます。
新規協力法人の開拓	法人募金の対象となる企業、商店の見直しをおこない、法人募金協力企業・商店の拡大を図ります。
3.職域募金依頼先の拡大	
多様な業種業界・法人への依頼	社会福祉法人への職域募金をおこないます。
4.学校募金・福祉学習の強化	
児童･生徒や教師の募金運動への理解促進	ありがとう運動や福祉学習の時間における共同募金の理解促進ぼ強化、募金運動への児童生徒の参加を高めます。
5.街頭募金への住民参加の拡大	
募金ボランティアの参加促進	助成団体や児童生徒をはじめとした募金ボランティアの参加を促進します。
街頭募金の実施回数の拡大	募金ボランティアの参加促進とともに新たな活動場所を開拓し、街頭募金の実施回数を増加します。
6.イベント募金の参加拡大	
参加イベントの拡大によるつながりの強化	各種イベントの主催者との連携を強化し、人の集まるイベントでのイベント募金をおこない、共同募金の理解啓発および募金額の増加に努めます。
7.窓口募金設置場所の拡大	
募金箱設置場所拡大による募金機会の増加	商店や公共施設等の募金箱設置場所を拡大することで、いつでもどこでも募金できる機会を増加します。
8.新たな募金手法の展開	
期間拡大モデル「見守り募金」の実施	中央共同募金会、滋賀県共同募金会と連携して期間拡大モデル事業を推進し、テーマ型の見守り募金を展開します。
寄付つき商品をはじめとした企業との連携	企業、商店との協働による新たな募金手法の開発をおこない、見守り募金の展開とともに企業の社会貢献活動を促進します。

じぶんの町をよくする助成	
1.助成方法の見直し	
透明性・公平性のある助成方法の開発	従来の対象団体が限られた助成から、公募型助成や公開プレゼンテーションの実施による公平性、透明性の確保を検討します。
2.助成団体の支援	
助成団体の活動状況を知る機会づくり	助成団体（寄付を受ける側）と寄付者（募金する人）の顔の見えるつながりをつくる場づくり(例:パートナーミーティング)や、助成審査委員が助成団体の活動を見学させていただき、意見交換する機会や、面接による助成審査会にすることで互いの理解、共感を高めます。
金銭的支援だけでない団体への継続的支援	助成金を交付するだけではなく、地域課題の解決に向けた活動を様々な側面から応援し、共同募金委員会との協働で取り組めるようにします。
3.地域課題解決型の助成	
地域福祉推進計画に沿った取組みに重点化	社協が住民や関係機関・団体等との協働により策定した、高島市地域福祉推進計画に基づく地域の課題解決への取組みに対して助成をおこないます。
見守りネットワーク活動への助成	中央共同募金会、滋賀県共同募金会と連携して期間拡大モデル事業を推進し、テーマ型の見守り募金を展開します。

じぶんの町をよくする広報	
1.助成先の成果を伝える	
助成団体の感謝と成果の声を伝える	助成を受けた団体の感謝の声を様々な機会を活用して市民に届けます。また助成を受けてどのような取組みがおこなわれたのか、成果とともにお伝えすることを重視します。
2.子ども・若者の理解を広げる	
福祉学習の推進	児童、生徒を対象とした福祉学習やボランティア体験の際に、共同募金の役割を伝え、助け合いの心を育むことで寄付文化の醸成を図ります。
子ども・若者が関心を持てる広報	子どもや若者が共同募金に関心を持てるように、画一的な広報ではない様々な手法を検討します。
共同募金運動への参加の促進	子どもや若者が強制感なく募金運動に参加できるよう工夫します。
3.共同募金の基本的理解の促進	
申請者と市民、審査委員が出会う場づくり	助成団体（寄付を受ける側）と寄付者（募金する人）の顔の見えるつながりをつくる場づくり(例:パートナーミーティング)や、助成審査委員が助成団体の活動を見学させていただき、意見交換する機会や、面接による助成審査会にすることで互いの理解、共感を高めます。
地域で７割使われることを伝える	集まった募金の７割は高島市の地域福祉のために使われていると言う基本的な事実を市民に伝え、じぶんのまちを良くする共同募金であることの理解を普及します。
地域の課題を伝える	社協と連携して地域の課題を明らかにし、解決すべき課題解決に参加できる方法として共同募金があることを伝えます。
4.多様な媒体・機会の活用	
効果的な広報手段の多様化を図る	子どもから高齢者まで多くの市民に伝わる、多用な広報媒体の選定と、対象にあった広報の方法を検討します。

Ⅱ 高島市共同募金改革アクションプラン策定の経緯

①赤い羽根全国ミーティング in 小浜視察
（第２回高島市共同募金改革検討委員会）
平成 24 年 6 月 13 日（水）14 日（木）15 日（金）

全国の先駆的な取り組みを学び、大いに刺激を受けました。

↓

②第３回高島市共同募金改革検討委員会
平成 24 年 7 月 4 日（水）10:00～12:00

小浜での学びを活かして、高島市で取り組めることを話し合いました。

↓

③第４回高島市共同募金改革検討委員会
平成 24 年 7 月 27 日（金）10:00～12:00

前回の話し合いを元に、取り組みの優先順位と具体案を考えました。

↓

④高島市共同募金改革アクションプラン素案づくり臨時会議
平成 24 年 9 月 4 日（火）10:00～12:00

24 年度運動期間に早速取り組めることは何か、問題点も含め話し合いました。

↓

⑤第５回高島市共同募金改革検討委員会
平成 25 年 2 月 28 日（金）13:30～16:00

今までの話し合いの総括として、平成 25 年度から取り組むべきことと、中期的に取り組むべきことを話し合いました。

①赤い羽根全国ミーティング in 小浜視察
（第２回高島市共同募金改革検討委員会）

平成 24 年 6 月 13 日（水）14 日（木）15 日（金）

●福井県小浜市で開催された第３回赤い羽根全国ミーティング in 小浜に改革検討委員および事務局職員が参加。全国の共同募金関係者から取り組みの課題や成果を学ぶことで、高島市の共同募金改革の方向性を考えるきっかけとなった。

6/13：海老澤委員・三浦委員・杉本係長・橋詰（以上４名）

6/14：出口委員・市川委員・海老澤委員・拝藤委員・林委員・谷委員・上田委員・中捨委員・三浦委員・中村委員・戸田委員・馬場局長・早川課長・尾形係長・杉本係長・松本・平松・吉田・宮田・西村・八坂・橋詰（以上 22 名）

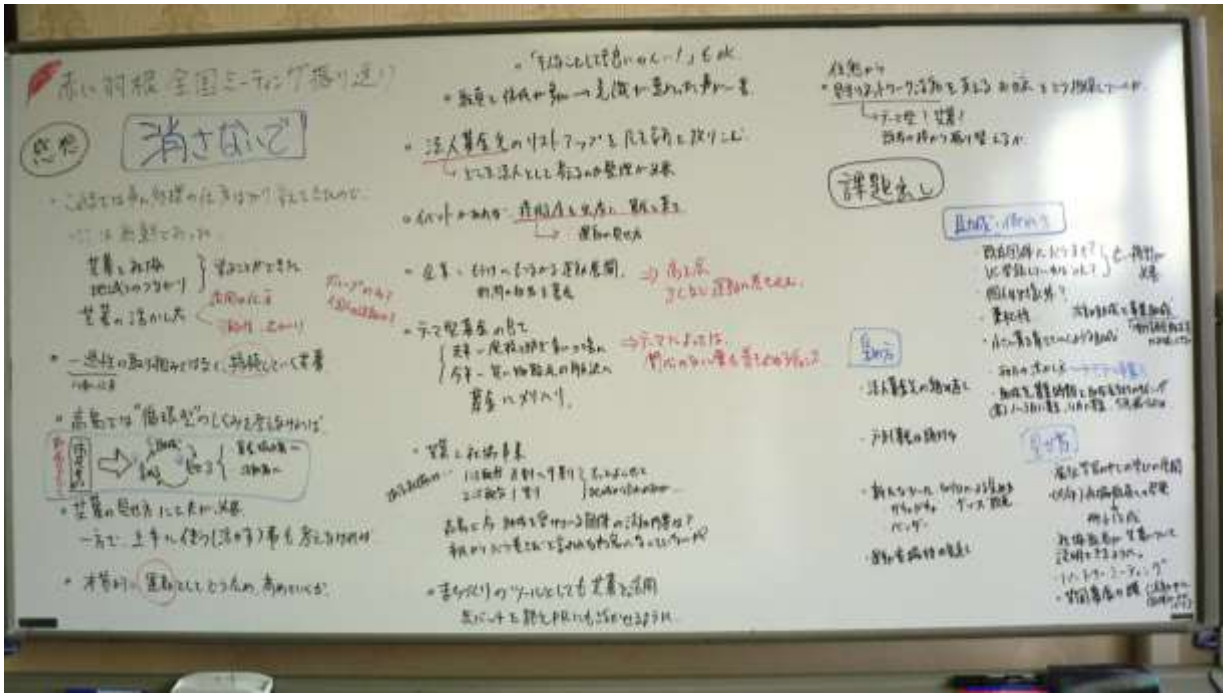
6/15：出口委員・市川委員・谷委員・拝藤委員・中村委員・戸田委員・馬場局長・早川課長・松田係長・杉本係長・松本・平松・吉田・西村・八坂・橋詰　（以上 16 名）

３日間延べ 42 名（井岡課長は同ミーティング実行委員として全日参加。）

事務局職員振り返り会議

平成 24 年６月 20 日（水）10：00～12：00

●第３回赤い羽根全国ミーティング in 小浜に参加しての感想と、高島市共同募金委員会で取り組むべきこと、取り組むと良いことを事務局職員間で話し合った。



●改革検討委員と事務局職員の参加アンケートから

助　成

- 助成の使い道をきちんと伝えられていたか。
- 寄付したいと思える活動と助成の使い道をきちんと伝える仕組みが必要。
- 地域内の団体や企業とパートナーシップを作っていくこと。
- 共同募金の原点を少し理解することができた。共同募金会活動は転換期にきており、社協の取り組み方も変えていかなければいけないと感じた。そして、災害対策や地域の課題等、もっと地域住民にアピールする寄付金の使い道と、公平で透明化された助成先を選定する仕組み作りが必要である。
- 共同募金の回し方が全然ちがったことに驚いた。（よそはたいてい今の時期に来年度の申請をするらしい。）
- 循環型の共同募金のしくみをしっかり「高島方法」を見つける必要がある。
- 審査方法にグループワーク方式で工夫。
- 先駆的な取り組みにも柔軟に対応できる共同募金の役割が大きい。
- 助成を受けている団体の方から「一所懸命実績報告書を書いて、募金のおかげでこんな事業ができ感謝していると“ありがとうメッセージ”を伝えているが、その報告書は日の目を見ているのだろうか？」という投げかけがありました。ともすれば担当者の所でファイルに綴じられるだけになっていないでしょうか？という問いかけに、グループの職員全員、考えさせられるところが大きかったようです。
- 高島市内にある多くの空き家を利用して自立支援ホームなどの立ち上げ、サポートをする福祉課題を解決するのに共同募金を使えないでしょうか。
- ３分プレゼンは助成金の交付先や使い道を公平・透明化するのに良い方法だと思った。ただし、年配の方が多い団体等は書類申請等慣れていないので負担を感じるのではないかと思う。

募　金

- 寄付したいと思える活動をしなければいけない。
- 募金を増やすこと。
- 広く住民参加を図ること・既存の協力団体との関係を更に深めていくこと。
- ユニセフは募金額がアップしているので、募金状況が冷え込んでいるわけではない。
- （１０月から１２月という期間だけの）一過性の取り組みではなく、維持していく共募に取り組むことの意義を感じた。
- 本質的に運動をどう高めていくかを考えなければならない。
- どこを法人として考えるのか整理が必要。法人募金先のリストアップを民生委員さんの力を借りて行うべき。
- 商工会やＪＣなど運動に参加してもらえるように企業の儲けにつながるような運動（利潤の数%を募金してもらうなど）を展開できたらいいと思うのですが･･･。
- テーマ型募金でテーマによって関心のない層も巻き込めるチャンスができる。

- 缶バッチ募金のことがあったが、観光ＰＲにも活かせるように、まちづくりのツールとして共募を使えないか。
- 募金への理解を深め、また募金額も上がるよう、啓発グッズにいろいろなアイデア（ガチャガチャ・布カバン・非常用パン缶など）を取り入れて工夫されている所がたくさんあることを知りました。募金資材には何らかの制限（きまり）があると固く考えていた私にとってはちょっと新鮮でした。
- ガチャポン等、工夫されて共募の募金額を伸ばされている事例も紹介されていたが、本質的な魅力を訴えられているかは疑問である。手法として付加価値をつける方法は参考になった。
- お金をあつめることが目的ではない。
- 慣例にとらわれない柔軟な発想と実践力が、共同募金の共感と協力につながることを、３つの事例を通して実感することができた。
- 募金額をプラスに変えたこれら３つの事例は、それぞれに魅力的で、高島版として取り組む具体的方策を、ぜひ改革検討委員会のテーブルで議論していただきたいと思った。
- 特にテーマ型募金に取り組む江田島市大君地区の取り組みは、募金の使途を明確にすることが、共同募金は、自分のまちを良くするしくみであることを実感でき、思わぬ波及効果にもつながっていることを知り、新たな募金のあり方に果敢にチャレンジしていくことの必要性を感じた。
- ファンドレイジングの手法を取り入れた「募金百貨店プロジェクト」は、とても興味深く、商工会やJC との新たな連携の可能性を感じた。
- 募金者が、募金をすることに価値を感じる工夫をしていかなければ変わらない。（地域課題を解決するためのテーマ型募金や、企業にとっても儲かるというメリットのある仕組み）
- 目的を明確にしたテーマ型は、住民にとって身近な課題解決に繋がるテーマを設定することで住民の気持ちを動かしている。共募ではあるが、地域支援の視点が大切になっている。
- 徹底した法人リストアップ、対面依頼により募金額を上げた柏崎市の例、企業にとってはあくまでも販促マーケティング の趣が濃く負担感のない寄付金付商品を開発した山口県の事例、当事者による課題解決の思いが強く共感軸を伴った江田島の例と三者三様に学ぶところがありました。
- 市民に開かれた見える共同募金の為に街頭募金に助成団体も立って一緒に募金活動をすることが大事。
- 配分（わけて配る）イメージが強い共同募金を課題解決プロジェクト募金(テーマ型募金)で募金協力者と助成団体の気持ちが近づくし、賛同された方にとっては見えやすい。
- 助成してもらう立場の人が募金活動を積極的に行い活動内容を紹介するということ。
- 共同募金は計画募金といわれるが、現状それが生きていない感じがした。助成団体が主体的に募金集めに関わって成功している事例を聞くと、やはり募金の目的が明らかで分かりやすく、当事者の熱意が伝わっているからこそ、成功しているのだと思う。地域課題解決が共同募金の原点であるなら、共同募金は「私たちに（地域に）必要なものは自分で決める」という市民主権によるものが本音。そのためにもっと公に開かれなければいけないと感じた。
- テーマ型募金。
- 法人募金の企業選出。
- 啓発資材がマンネリ化しているので、少し違ったものを取り入れると興味がわくのではないでしょうか。

- 目的をはっきりさせて、そのためだけの募金を募るというのも一つの方法かと思います。
- ボランティアグループ等共募の助成金をもらっている方にも街頭募金の協力をお願いする。
- 共同募金ありがとう運動をもっと活発に。福祉教育からいろいろな場で！
- 高島市社協キャラクター「きらりちゃん・こらぼん・くーぴー」を活用した PR。
- オリジナルグッズの開発と販売（ガチャガチャ機などの活用）。
- 募金期間は延長しないまでも、市としての重点事業を毎年決めての募集(分野)。
- 法人寄付と事業のマッチングを考えて、支援事業で企業広報できる仕組みなど（スポンサー制）。
- 計画募金になっているが、高島市の方法の整理が必要ではないか。
- 寄付行為に対するリターンが、その場でも得られるような運動の仕方。（ガチャガチャや缶バッチ等）
- 参加しやすい運動の展開。（例：ボランティアさんがイベントに模擬店を出し、収益を募金にという運動に参加する）
- 共同募金バザー。
- 窓口募金箱の見直し。
- 街頭募金、イベント募金の工夫。
- テーマ募金について面白い募金の仕方だと思うが、地域性が高く４００戸位だからできたのだと思った。
- 募金のできる自販機の設置は誰でもいつでも募金ができるメリットがあるかと思います。民生委員の関わりも大切ですが、もっと幅広く福祉推進委員にも関わってもらったら良いと思います。

広　報

- 「赤い羽根共同募金は、地域課題を解決するための市民参加の共同募金」という表現が、単刀直入でわかりやすいワンフレーズだと印象に残った。他に心にとまったフレーズは「赤い羽根は世界を救う」「輝く絆」「心を揺り動かす」
- 共同募金を活用した地域の活動が住民に見え、「それなら私も募金したい」という市民が増えるよう、委員会が中心となって動くことができるとよいと思います。単にお金の動きだけでなく“人と人とを繋ぐ”という大切な役割が委員会や事務局の動きに求められる、とてもワクワクする運動であると改めて気づかされました。
- 地域の課題解決のために共同募金はある。
- ３名のコメンテーターのアドバイス・進行役である田尻さんの流暢なトーク、あっという間に時間が経ちました。特に一番前、まだ福祉が形となっていない時代に活躍された北岑さんのバイタリティーに感動しました。ハングリーな時代ではあったけれど、“みんなで”ということが少なくなっているように思いますが、“みんなで”を復活させなければ地域は良くならない、疲弊していくばかりだと感じました。池尾さんのユニークな話の中からも「目に観えないものを大切にしょう」「地域の人の心を動かす行動をしよう」などエネルギーを注入してもらいました。また、５名のレポーターの方の話も興味深かったです。ひとつ考えを言わせてもらうとパワーポイントをもっと活用し視覚に訴えてもよかった。資料としてもいただきたかったです。
- 今までの共同募金に対する考え方がとても狭いものであった。近視眼的であったことを知りました。

知ることは大切ですが、知ることで共同募金が増えるとは限らない。知れば知るほど難しい問題だと感じました。

- 広報には統一感が必要。ブランド感をつくる。
- 募金協力者と活動者（助成を受ける側）に広報をしっかりしていく。
- 共募の見せ方（広報）に工夫が必要。一方で上手に使う（活かす）事も考えなければ、見せたからといって募金額が増える（集まる）とはイコールではない。（助成先として）そんなことをしていても良い！というような声も出ることになる。
- 出し手に社協が使い道をしっかり伝えていくことが必要。
- 電通の役員が講師であったが、福祉関係者でない方の指摘は鋭く、参考になる。特に印象に残っているのは、「今の企業に必要なものは、理念（ミッション）と戦略的広報である。」という言葉。これは、赤い羽根にもいえることで、いかに理念を地域住民に伝えるか、どういう広報が響くのか、アイデアの出しどころだと感じた。
- 住民の方に寄付が何に使われたのか、何が変わり、何に役だったのか、地域がどのように良くなったのかを知らせなければ住民の心を動かすことはできない。
- 地域に理解を求めるには、組織でニーズをキャッチし、縦割りでなく組織で連携し、職員がまず同じ方向を見ていくことが大事であると思う。小浜市では、暮らしの場の中で住民への周知の仕方を工夫され、目で見える周知の仕方、目で見える環境づくりをされていることで広く住民へアピールされている。最近ではどこの地域でも大型店の進出により地元の店先が寂しくなってきているが「いさざの会」の作品を店先に展示しギャラリーに変えている発想も良かったと思う。
- 活気づいている小浜市職員さんの姿を見て、自分たちの町を全ての地域の人々が愛している＝思いを形にしていると感じた。
- 助成を受けた人の“ありがとうメッセージ”を寄付者や一般住民に広く伝えることができれば、募金の使途がより明確になり、募金への理解も更に深まるのではないでしょうか。寄付者と助成を受ける人との橋渡し役である委員会事務局の“見せ方”の工夫が期待されます。頑張りましょう。
- 「自分達の為の共募だよ」と伝えるためにまた納得してもらう為に見せる共募、見える共募にしなければならない（助成もらっている側の意識をチェンジ）。
- 自分がきちんと説明しないと伝わらない。（自分の意識をチェンジ）
- 固定化・マンネリ化しているので、もっと広く共募の広報をする必要がある。
- 広報のプロから、思いを伝えるコツを伝授いただいたことを活かして、自分の言葉で簡潔に伝えることを意識して即活用していきたい。
- 中央でどれだけ良いチラシや広告をつくっても、最後は現場で寄付者に接する一人ひとりが自分の言葉で告白するように共同募金についての思いを話せるかどうかが一番大事なポイントという講師の話が本セミナーの結論であった。
- 地域住民の巻き込み方が上手い。（社協が赤い羽根をコミュニティワークに活かせている好例）そのための活動の周知・広報が現時点では不足している。
- 募金を活用して行った事業の内容を広く住民に知ってもらえるような工夫ができないでしょうか。

たとえば、活動をビデオに撮り、出前講座やサロン等で披露するなど・・・。

- 地域に 70%還元されていること、計画募金なので、どうした事業に対して集めるのかということの

広報強化。

- 高島版共同募金パンフレットの作成。
- 高島版で発行するものの広報の統一感。
- PR　だれがしても共同募金を説明できるツール（パネル等）。
  ローカルテレビで CM を流す。
  表彰制度（大口）。
- 公開プレゼン。すぐには難しいと思うが、将来的には定着させ、透明性のある赤い羽根にしたい。
- 人に伝える難しさを感じた。自分のことをよく知り伝え方もインパクトのある伝え方、人が興味を持ってくれる伝え方、伝えることを１つにしぼり自信を持って伝える「伝わらないものは、ゴミと一緒だ」という言葉は頭に残りました。
- 共同募金の必要性や使い道を学校や各種団体の会合などに参加させていただいて具体的に説明する。また、いただいている団体の活動内容も紹介する。

その他

- 小浜市長の若さと福祉に対する思いの熱さ、その実践力に感銘を受けた。
- ５つのテーマに沿ってのレポーターによる報告は、簡潔で理解しやすかった。
- 共同募金の課題と向かう方向を５つに分けて説明を頂いたが、知らないこともあり新たな知識になった。災害時の支援が県域を越えて出来るようになったのが阪神淡路大震災以降・ボラサポ等。
- 共同募金については、社協はお金を集める単なる事務局にしかすぎないという認識だったので、こんなにも熱く共同募金を語る全国の職員さんたちに囲まれて、正直言って異次元の世界に来た感覚でした。
- 共同募金が地域の福祉活動に使われ、その福祉活動を支援する社協とは切っても切れない関係であることを再認識した。
- 共同募金運動への取り組み方については、活発な地域とそうでない地域とで温度差が大きいように感じ、「高島市はこれからやなあ･･･」と思いました。
- 共募改革は社協改革。
- 介護職員の時に何度か関わった事はあったものの、深く考えることはなかなかなく、ただ、やっているだけ感があったが、今回の全国ミーティングを通して、また、全体会を通じて基礎の基礎を学ばせて頂くきっかけとなった。「基礎・災害・寄付・助成・広報」についてそれぞれの要点を初日に聞けた事はよかったが、最後の全体会についてはもう少し各分科会の内容について深く聞けるとよかったかなと感じた。
- 小浜市議会議長さんの「一人の社協職員の社会矛盾に対する現場の怒りのようなものが改革の動機」というご発言には感銘を受けました。
- 職員や関係者の意識改革を図ること・現状を客観的に捉えること・これからの活動に臨むための元気をもらったことなど多くの役立つことがあったミーティングであった。
- ２日目の参加であるので全体にはわかりませんが自分自身、共同募金と改めて向き合える勉強の時間になったと思う。

- 共募改革は社協改革であると社協への厳しい提言があり、今までと同じことを続けていたのではだめだなと感じた。
- 共募も社協の活動も「しくみ」を議論する前に、本来的に社会から要請されているに応えうるだけの質の高い事業を提供できているどうか。
- 共募関係者、社協関係者といった身内だけではなく、第三者の厳しい視線にさらされてこそ実のある改革である。
- 時代にあわせて循環を変えていく。
- 地域では多様なサービスが必要とされている。
- これまでは、事務処理の仕方ばかりを考えてきたので、ミーティングは新鮮であった。
- 共募と社協、また、地域のつながりを学ぶことができた。
- 高島ならではの循環型のしくみを考えなければいけない。（市民参加で福祉計画に基づくように助成⇔募金⇔広報の循環型）
- 今回、今までにないくらい多くの改革検討委員（住民さん）と（社協）職員が参加して意識が変わったことが一番良かった。
- 講義でまず、基礎となる共同募金の原点等についてご講義いただいたが、時間等の都合もあり深く聞く事が出来なかったのは非常に残念であった。その後の実践報告では、非常に面白い取組等もお聞きする事ができ、日々新たなる挑戦が必要であることを実感できる時間となった。
- 質疑応答では、社協のあり方について考えさせられました。民生委員についても･･･。
- 最後の全体会では各セミナー・分科会の内容が全て聞くことが出来て良かった。

②第３回高島市共同募金改革検討委員会

平成 24 年 7 月 4 日（水）10:00～12：00

委員：山本委員・出口委員・市川委員・拝藤委員・林委員・上田委員・小多委員・中捨委員・三浦委員・中村委員・戸田委員

オブザーバー：榎森氏（県共募）

事務局：馬塲局長・井岡課長・杉本係長・松本・平松・吉田・宮田・西村・八坂・橋詰

【ゴール設定】

- 第３回全国ミーティング in 小浜での学びを振り返り、高島市の共同募金の改善策を考える。
- 小浜の参加アンケート結果を基に募金・助成・広報・その他に分けて高島市で小浜の全国ミーティングで学んだことをどう生かしていけるかを考える。
- ３つのグループに分けて、募金・助成・広報の「すぐできること」と「将来できること」をグループワークで洗い出し。

グループワークのまとめ

●募金：今すぐやること・できること

【共通】

・運動資材の工夫（高島オリジナル）。
・意識改革、組織改革、人の強化。
・各種団体の会合などで共同募金について具体的に説明をする。
・助成金受領者との連携。

【戸別募金】

・強制感なく集められる戸別募金のノウハウ。
・自治会未加入地域世帯へのアプローチ。
・自治会での募金方法を考える。できれば組長さんに集めてもらう。

【法人募金】

・法人募金先の見直し（民生委員さんの協力を得る）。（複数回答）
・法人募金の開拓。
・企業の理解を得て、協力企業を増やす。
・法人募金の訪問先を事前にきちんと整理しておくこと。（募金をしないところも訪問しておりイメージダウンになりかねない。また、事業所休止、閉鎖等を知らずに訪問するのは無駄を防げる。
・法人については、予定されているところへは必ず依頼する。個人事業所では不在だと再訪なしにしているか、事務担当者（社協職員）のみで訪問。

【街頭募金・イベント募金】

・街頭募金・イベント募金運動の規模を大きくする。
・実施場所の見直し。
・実施回数を増やす。（複数回答）
・街頭募金を市民参加で回数増やす。
・助成団体と一緒に大勢で街頭募金をする。
・駅やスーパーでの街頭募金活動は一週間程度ローテーション体制をとって活動するようにしてはどうか。
・助成団体も参加（複数回答）。
・助成してもらう側への募金活動に参加することを義務づける。
・高島市共同募金デーを設定し、大々的にキャンペーンを張る。

【窓口募金】

・募金箱の設置場所の見直し。
・募金箱の改善（わかりやすくする）。

【テーマ型募金】

・高島の「テーマ型募金」をつくる。
・障がい者や老高齢者向けなどテーマ別に募金を行えば関心も高まるのでは。

【福祉学習】

・職員に学校で社会矛盾に対する不条理のようなものから始め、子どもたちの心を動かすような話をし

てもらう。公民館で大人にも。または、広報誌に顔写真入りで書いてもらう。
・フィランソロピー協会のペニーハーベスト（※）を学校でやってみる。子どもたちが社会貢献参加。
※アメリカの教育システムで、子どもたちに寄付教育を教える。
・子どもが鏡になると大人にとっても教育になる。

●募金：将来やること・できること

・観光客に募金をしてもらうしくみを考える。
・各戸に募金箱（自分でつくる募金箱）を設けて常時募金できる工夫をする。
・助成団体に法人募金・街頭募金への協力を呼び掛ける。
・小地域社会福祉推進委員会にも募金活動を依頼する。（負担とならない形で目標設定）
【テーマ型募金】
・テーマ型募金（見守り）。
・テーマ型募金の導入。
・目的型の募金（振込用紙付き）。
・期間拡大募金をテーマ型で実施。
・企業とタイアップして冠募金を企画する。

●助成：今すぐやること・できること

・助成金の説明会をする。
・書面だけでなく簡単な面接をして、意識を高めてもらう。
・助成団体の活動状況を見学する
・助成の種類や助成先を増やす。
・助成の種類を特定しない。
・助成先を柔軟にする。
・他の助成を受けていない団体にも助成する。
・公募する。（どんな助成があるのか、できるのかを知らせる）
・助成申請書の出しやすい工夫（時期や内容（思いついた時に出せたら良いが･･･）。
・申請のしやすい方法、書類の簡素化。
・見守りネットワークなど、社協テーマ（地域福祉推進計画）に合う先へ特化、または集中する。
・見守りネットワークの助成源として検討する。
・既得権感覚を変える。
・もらえるだろうと当てにしている団体が多い。
・変わっていくという意識を伝えていく。
・高齢者支援だけでない（共募・社協）のイメージチェンジ。

●助成：将来やること・できること

・公開プレゼンテーション（一部のテーマ型から始めるとか）（審査委員と申請者が出会う場とする）。
・助成先決定に公開プレゼンの導入。

・地域に必要なニーズを把握して募金の集まる助成（テーマ型募金）。
・対象を限定しない公募型助成にする。（テーマ型募金）

●広報：今すぐやること・できること

・子どもや若者を取り込めるアイデア広報。
・広報誌（紙）を活用する。
・地域に７０％還元されていることの広報強化。
・「地域に戻る」をアピールする（例えば「高島を良くする募金」）。
・わかりやすく伝える工夫。
・何を伝えるのかテーマを決定する。
・何でも見せる。
・どんなことに助成をされているのかやはり理解されていない。理解を広める広報を行う。
・行き先を知らせる。
・成果を生の声で伝える。（無線の利用）
・高島版広報を作ろう。
・高島市共募の広報紙の発行。
・地域の課題解決（ひきこもり・虐待など）につながる具体的な事業を揚げ、それに対して募金を集める。（高齢者だけでない全地域型福祉・若者に訴えるものが必要）
・助成金の交付申請の方法を広く広報する。
・小学校でのありがとう運動。
・助成先から実績報告書を提出してもらう時に「ありがとう手紙」を手書きで書いてもらい、法人募金などの礼状に同封する。

●広報：将来やること・できること

・寸劇を作って広報に廻る。
・啓発用ＤＶＤをつくる。
・人が多く集まる市内の文化祭・発表会などで共同募金をアピール。
・パートナーミーティングの開催。
・共募を市民に広く伝える場の開催（パートナーミーティング）。
・共同募金での市内取組事例発表会を市民向けにする。
・オリジナルツールの開発。

③第４回高島市共同募金改革検討委員会

平成 24 年 7 月 27 日（金）10:00～12:00

委員：市川委員・拝藤委員・上田委員・中村委員・戸田委員
オブザーバー：島村事務局長、笈川氏（中央共同募金会）・川口参与、榎森氏（県共募）
事務局：馬場局長・井岡課長・杉本係長・松本・平松・吉田・宮田・西村・八坂・橋詰

【ゴール設定】

●第３回改革検討委員会で「今すぐできること」「これからやりたいこと」として、出たアイデアを募金・助成・広報に分けて集約した資料を基に、更に整理して優先順位と具体策を検討してアクションプランにしていく。

募　金

●募金について優先的に改善すべきこと（委員＆職員の意見）

・助成している団体が募金活動に参加する（もらう人と集める人の境界が無い地域密着性・当事者性　財源の理解）　・募金箱設置場所の見直し　・子どもたちへの寄付文化教育（福祉学習）　・法人募金先の見直し、新規開拓　・テーマ型募金の実施（期間拡大で）　・協力者を増やしていく　・社協活動への信頼を高める　・振込用紙付きの募金　・共同募金の具体的な理解（何となくいいことに使われている？と言う認識を変える）　・募金箱を各家庭に設置（子どもたちがオリジナル募金箱を工作）　・助成団体が活動発表できる場をつくる　・街頭募金やイベント募金の規模・回数を大きくする（福祉関係者以外とのつながりもつくる）　・戸別募金の協力理解　・高島市の共同募金デーをつくる　・冠（企業）募金の実施

【募金】グループワーク結果

参加者：林・中捨・拝藤・中村（以上委員）、馬場・西村・平松（以上社協）

■戸別募金

募金方法の見直し

・各戸に小さな募金箱を置く。1 円や 5 円を 1 年かけて各家庭で貯めておき、運動が始まった時に募金してもらう。（24 時間 TV のようなイメージ）ただし、募金箱をどう作るか？どう配るかが課題。H26 年度実施できるよう、H25 年度中に具体化に向けて検討する。

区長・自治会長への依頼の仕方

・区長の意識レベルをどうクリアしていくか。
・福祉推進委員会がサロンの場等で説明すると説得力がある。
・区長・自治会長へ共同募金の理解が進むように根気よく説明する。

■街頭募金

助成を受ける団体に参加を促す。

★子どもが街頭募金に立つ。
　H24 年度、子どもの力が募金額アップにつながった。
★スポーツ少年団に声かけする。
　H24 年度協力した GS,BS 以外の子ども関係の団体へ声かけする。
★学校での福祉教育の一環で、「ありがとう運動」の時にボランティアを募る。（1 学期から）
・助成を受ける団体に H24 年度以上に参加を促す。
・顔が見える関係が大事。

回数を増やす

・回数を大幅に増やす。
・街頭募金は、最高の広報！（金額ではない）

場所の工夫

・駅での募金（利用者の多い安曇川駅と今津駅）

■法人募金

民生委員以外の協力者を増やす

・区長・自治会長に協力してもらう。業種や所在地にもよるが、企業は社会の公器。民生委員よりも区長・自治会長とのつながりが強い。

依頼先の見直し

・儲けている企業へ依頼に行けていない。

新規開拓する

・神社への依頼（初詣客が多いのは、白髭神社と海津天神社？）

■学校募金

福祉学習を進める

★ありがとう運動を５月から、全ての小中高で実施する。共募委員をはじめ、助成を受けている団体も一緒に行く。

・書き損じ葉書や古本等、換金できるものを集める。（募金を断られた次の一手として提案する。）

・リサイクル業者との連携。

共募の募金箱作り

・学校の授業の一環で作ってもらう（市教委への働きかけ）

■職域募金

★全ての社会福祉法人に協力を依頼する。

★業種（業界）団体に協力を依頼する。（CSR の一環として）

・労働組合を組織している会社。

・民間企業で一定以上の社員を雇用しているところ。（ただし、高島の場合、社員＝高島市民＝戸別募金となっている場合が多いので、二重取り三重取りにならないよう配慮が必要か）

■イベント募金

いろいろなイベントに参加する

★スポーツイベントでの実施。

★寄付金付き商品をイベントでお願いする。例：ジュースを買うと自動的に 10 円募金できる。

★助成を受けて活動している団体が募金期間に実施する活動中にイベント募金を実施してもらう。（啓発グッズを貸し出す）→活動の様子を委員が見る機会にする。

■窓口募金

設置場所の見直し

・募金箱は、期間拡大の１月～３月も設置を依頼する。

・居酒屋等、夜商売しているところにも設置する。

■新たな募金手法

期間拡大（見守り）

テーマ型募金

払込取扱票付き募金

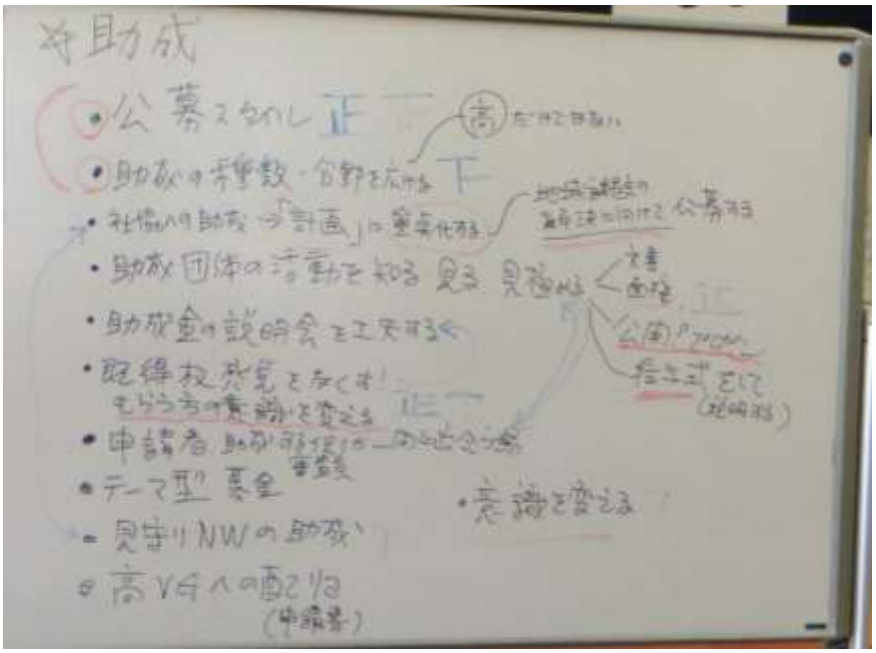
企業の冠募金

・赤い羽根おみくじ

・赤い羽根自販機（おつりボタンを押すと募金になる）

★は H25 年度から取り組みを進める活動

助　成



●助成について優先的に改善すべきこと（委員＆職員の意見）
・公募型の助成　・助成の種類（分野）や助成先を拡げる　・社協への助成を「地域福祉推進計画」に基づいた取組みに重点化する　・助成先の活動状況をよく知る（活動を見学する、面接によりヒアリングする　決定通知書の授与式）　・助成金の説明会を工夫する　・既得権感覚を無くす（寄付をもらう側の意識を変える）　・地域課題の解決につながる活動に助成する　・審査員と申請者が出会う場、申請者同士が出会う場をつくる　・見守りネットワーク活動への助成　・幅広い課題に対応する助成　・誰にでもやさしい申請方法（申請書記入が大変な方も）

【助成】グループワーク結果

参加者：山本・出口・谷・戸田（以上委員）、井岡課長・吉田（以上社協）

■公募型の助成・既得権をなくす

・公募型に移行していくことが大切だが、一気に動くのではなく緩やかに移行する
★今までの助成対象のグループを排除するのではなく、従来に新規をプラスするところから始める
★公募説明会を開催する。助成制度改革のいきさつも説明する。
★申請の手引きを作成し、具体的な記載をする。（例、ケーキはダメ　材料なら良い）
★公募に関する要綱等を、市や社協の広報誌に掲載する。また、ネットにも載せる。

■公開プレゼン・面接型

・公開プレゼンは難しいかも。先ず面接から始めてはどうか
★審査委員に一般の方から公募した委員を若干名入れる。安曇川高校生などボランティア活動をしている若い世代に参加してもらうのもいいのでは。
★テーマ型の助成への応募は公開プレゼンで行なう

■助成団体の活動を見る

★助成にはテーマ型と広く浅く活動を支える形の２つがあるが、広く浅くについては、従来の申請から今年度の申請にほとんど変化が無く、疑問を残したままになっているところが多い。各地域で数箇所、気になる申請をしたところに活動を見にいき、共同募金の主旨に添ったものかどうか、やや逸れた活動については、添うようにフォローしていく。

・活動事例集を作成し広報するためにも見に行く必要がある。

・事務局として活動をホームページ等に載せたりして広報していく支援があればいい。

・フォーラム等の情報の周知・交換の場で活動を報告してもらう。

■テーマ助成

★テーマ枠を作る。（公募）

小口・・上限〇円で書類審査　　テーマ・・上限〇円で公開プレゼン

・例えば、各自治会に車いすを１台ずつ設置するというテーマで募金を行なう。購入まで出来なくても一部助成のために使用してもいい。

■歳末助成

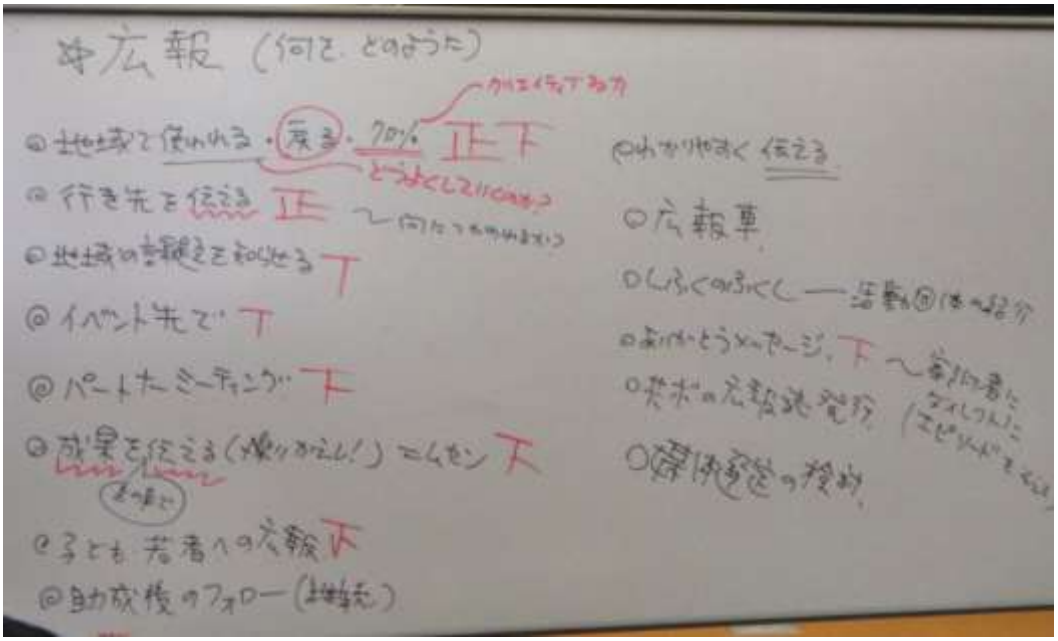
・歳末助成の改革を行なう。

歳末助成金の使途に疑問がある。（クリスマス会やお餅つきが、歳末助け合い募金の主旨に合うのか）必要な方のところに届けなければいけない。

助け合い募金を歳末に集め年間を通して支援が必要な方に届けるなど制度を変える。但し、まだ検討するところは多く他市を参考にしながら進めていく。もし、貸付けをするなら、生活保護の（行政の）補填システムにならないよう気をつけなければいけない。

★はH25年度から取り組みを進める活動

広　報



●広報について優先的に改善すべきこと（委員＆職員の意見）
・地域に戻る（７割）、地域で使われる募金であることを伝える　・お金の助成先を伝える　・解決すべき課題は何かを伝える　・イベントなどで伝える（すでにある機会を活用）　・パートナーミーティングの開催　・成果を生の声で繰り返し伝える（行政無線など広く伝える）　・子どもや若者が興味・関心の持てるアイデア広報　・助成した後の継続した団体のフォロー　・広報は知らせるよりも伝えること（課題を伝える⇒だから募金が必要）　・高島をよくする募金を具体的に（効果や成果も）　・ありがとう運動は子どもにも先生にも伝わる　・広報車でＰＲ　・しふくのふくし（社協広報）の有効活用　・手書きのありがとうメッセージを募金者にお渡しする　・共同募金の広報紙作成　・多様な媒体を増やす

【広報】グループワーク結果

参加者：三浦・上田・小多（以上委員）、松本・宮田・八坂（以上社協）

■学校や地域での福祉学習

★地域のサロン等で実施される出前講座の時間の最後で共同募金を PR する
★学校での福祉学習の中で共同募金について学べるプログラムを実施していく
・担任や各学校長への働きかけだけではなく、継続して広く取り組んでもらえるよう市教育委員会とも連携し進める
・現在学校で実施している時間の最後に時間を設け共同募金を PR していく
・共同募金を学べるようなプログラムを作り、福祉学習の時間に実施してもらう
・子どもたちが「寄付する」「集める」「審査する」「使って活動する」の模擬体験をしながらしくみと意味を学ぶようなプログラムを作る
・ひびきあい活動などの親子が集う場で共募について PR していく

■助成団体が寄付者へ「ありがとう」を伝える

★助成を受けて活動した団体の広報紙や報告書に共同募金の「ありがとう」のメッセージを載せる
★「しふくのふくし」などの広報で「ありがとう運動」をしていく

■子どもや若者を対象とした広報

★学校の昼休みの校内放送で共同募金の PR をしてもらう
・防災無線で広報する際に、子どもたちの声で広報するようにする
・共同募金の審査委員に高校生を加える
・子ども広報委員会を作り、子どもたちに広報を企画してもらう
・高島市共同募金委員会のゆるキャラを作る

■広報媒体

★社協のホームページで共同募金を PR していく

★広報媒体である「しふくのふくし」を全戸に配布してもらえるよう働きかけていく。

★出前講座を地域での広報の場として活用していく

★高島市共同募金委員会独自の広報を定期的に発行していく

（・協力企業のイメージ UP につながるような広報を　・写真や映像を活用する）

・新しい助成対象に助成金の案内をする機会を、新たな広報の機会として活かす

・年間を通して共同募金を PR するようなチラシを作成し配置する

★は H25 年度から取り組みを進める活動

④高島市共同募金改革アクションプラン素案づくり臨時会議

平成 24 年 9 月 4 日（火）10:00～12:00

委員：山本委員・市川委員・海老澤委員・林委員・谷委員・上田委員・中捨委員・三浦委員

オブザーバー：榎森氏（県共募）

事務局：井岡課長・杉本係長・松本・平松・吉田・宮田・西村・八坂・橋詰

【ゴール設定】

●平成２４年度の募金運動を間近に控え、今までの話し合いから出た改革のアイデアを元に作成した２４年度運動案について問題点を洗い出す。

【法人募金と街頭募金についてグループで検討】

●１グループ：

・法人募金を依頼に行っても民生委員も職員も無理強いしない、「あっさりあきらめている」ので法人募金が減っているのではないか。また、民生委員が同行していただいているので、準備していただいている法人も多い。

・民生委員が、なぜ法人募金に協力しているのか理解・納得が出来ていない。また、法人から「嫌なことを言われる」とか「法人の事情を知っている中で自分（民生委員）が行くと嫌だと言えない法人に申し訳ない」といったこともある。

・以前は駅前の街頭募金をしていた。やるとなれば朝６時ごろからになる。

・法人と言えないような個人商店にお願いしているのは申し訳ないといった意見も出た。

・共同募金助成団体に協力してもらえるような工夫。街頭募金の時に団体のパネルをつくって活動報告もしてはどうか。

・街頭募金については１０月１日から１週間、また１０月から１１月毎週土曜日８回実施するなどしてみてはどうか。また、区長・自治会町に何人区から仕立ててもらうのは無理でも、募金ボランティアを広く一般の住民に声をかけてほしいということなら協力が得られるかもしれない。

・職員用募金期間限定名札をつくる。

●２グループ：

・法人募金については、リスト探しが大切。電話帳や花火大会のチラシなどを参考にしてはどうか。また、募金運動倍増計画ではなく一歩一歩進んで行っていけばよい。

・社会福祉法人やＮＰＯ法人に声かけをしていく。ガールスカウト・ボーイスカウト・スポーツ少年団などにも協力依頼をしてはどうか。福祉教育にもなる。

・街頭募金は昨年度より増えているのだからそれで良い。

・街頭募金について「委員」も協力する。

⑤第５回高島市共同募金改革検討委員会

平成 25 年 2 月 28 日（金）13:30～16:00

委員：林会長・山本副会長・出口委員・拝藤委員・谷委員・小多委員・上田委員・中捨委員・三浦委員・中村委員・戸田委員

事務局：馬場局長・井岡課長・松本・吉田・平松・宮田・西村・八坂・橋詰

【ゴール設定】

●ワールドカフェ形式で募金・助成・広報のグループに分かれて、ここまでの意見集約である「改革検討委員会で出された意見まとめ」を元に、各項目について具体的な方法を考えて、取組みの優先順位を付ける。

●より実現可能性の高い「少し背伸びすればできそうな方法」に絞り込む。さらにプラスのアイデアがあれば補足していく。

●次年度から優先的に取り組むべきこと、中期的に取り組むべきことを具体化して、平成２５年度事業計画および改革アクションプランを完成させる。

高島市共同募金改革検討委員会で出された意見まとめ

【募　金】

1．助成を受ける団体に街頭募金運動の参加を促す

・募金が何に使われているか良く分かって良い。
・多くの助成団体に参加してもらうことで使い道も地域の方に知ってもらえる。
・助成を受ける団体に街頭募金運動の参加を義務付けても良いかもしれない。
・街頭募金運動の参加を助成団体へ義務付けるより、福祉学習と同じように位置付けていってはどうか。
・共同募金が他の募金と違う大きな特徴は募金をもらう人と集める人の境界がない。募金を受ける側が募金をする側にもまわる。
・今まで楽しく集まってボランティアされている方も素晴らしいけれども、助成を受ける団体が街頭募金運動に参加することで私たちの活動が地域に役立っていると実感してもらえると、募金をしてもらえる人が増えるのではないかと思う。
・助成を受ける団体に集めることを知ってもらう。
・助成を受けている団体に街頭募金に参加してもらうことで財源が「共同募金」であることがわかる。
・助成団体に街頭募金運動に参加する前に共同募金について具体的な説明をすることが必要。

2．法人募金先の見直し

・民生委員だけでなく協力を得られる方を増やすことが大事。
・今行っていることころが、本当に法人なのかとどうなのかという話は多い。みんなが納得できる形での見直しが必要。
・高島市での起業はまだ年月が浅いかもしれないが堅実に頑張っている法人もあるので新規開拓していくべき。
・民生委員と一緒に回っているが、ここは行って、ここは行かないのはなぜかと聞かれる。
・個人商店が多いので戸別募金でも協力し法人募金でも協力をいただき心苦しい。
・声かけられたら断れない個人商店に甘えていてはいけない気がする。

3．窓口募金箱の設置場所の見直し

・今置いている場所で本当にいいのか。
・福祉施設の窓口にも積極的に置ける。
・道の駅などに置くことで観光客に募金をしてもらうことも案外簡単にできる。

4．テーマ型募金

・テーマが決まっていると募金してもらいやすい。
・病院ボランティアに行っていると車椅子が足りない。高島市民病院は高島市民の税金で賄われている。
例「高島病院に車椅子が○台足りません」といったテーマを決めてやるのはわかりやすくて良い。
・地域に必要なニーズを把握して募金を集めるテーマ型募金は、皆が問題の当事者という意味でいい。
・地域助成金には余裕があるわけではないのでテーマ型募金は期間拡大募金でできたらいい。
・高島オリジナルテーマをつくる。当事者意識を高めるためにも必要。

５．払込取扱票付き募金

・自分が募金したい時に募金できる。
・払込取扱票付き募金だと使い道が指定されているのでわかりやすい。
・自分の意思で募金できる。
・機会を選ばないので便利である。

６．街頭募金・イベント募金の規模を大きくする

≪街頭募金≫
・街頭募金は回数を増やしていくと少額でも募金額は上がる。
・駅やスーパーでの街頭募金活動は１週間程度ローテーション体制で活動してはどうか。
・高島市は観光資源が多いので検討する。
・街頭募金は１０月１日だけでは全国一斉なので効果が少ない。「他で募金をした」と断られる。
≪イベント≫
・イベントに実行委員会のメンバーとして参加することで普段関わることが少ない福祉関係団体以外の方と協働ができるし、共同募金運動への理解も広がる。
・高島は特に秋にイベントが多いので運動期間中に参加できる。

７．常設募金箱、家庭に募金箱を設置

・募金箱が決まった時期に決まった場所だけではしにくい。何か工夫が必要。
・共同募金の中で家に募金箱を置くという発想があるようでない。
・3.11 の時に家で募金箱をつくって家の者で集まったらまとめて募金しようと話した。孫が入れたり、お釣りを入れたりして結構集まった。これを学校教育の中でできないか。
・子どもが募金箱をつくって家に置くと、家族も募金してくれる。
・例えば社協（共募）が学校の授業で共同募金の話をし、みんなで好きな募金箱を工作して、１年かけて家で集めて募金をしてもらえたらおもしろい。
・期間を決めるか、年間を通してでも良いのかもしれない。
・子どもに共同募金について教育をしていく必要がある。

８．戸別募金の見直し

・戸別募金は募金額で占める割合が高いがクレームの数も多い。すぐにはできないかもしれないけれど、戸別募金の見直しが必要。
・目安額設定の仕方
・区長・自治会長への依頼の仕方

９．企業の冠募金の実施

・企業の名前が入った冠募金ができたら良い。
・企業とタイアップした募金、助成もやりたい。

【助　成】

1．公募スタイルにする

・助成先を柔軟にする。団体ありきではなく取り組みを見ていく。
・テーマをもたせる。
・地域に必要なニーズを把握して募金の集まる助成につながる。
・公募することで助成してもらえることがわかると新たな活動者が増える可能性がある。
・公募スタイルで助成団体を募集することで地域の方に共同募金に関心を持ってもらうことが大事。
・高齢者支援だけでないイメージを変える。
・今は社協に登録する団体に助成することになっている。
・助成の種類・分野を広げるためにも公募スタイルにしていく。
・いろんな人に知ってもらう。
・広報も兼ねてやっていくべき。

2．既得権感覚を変える

・もらえて当然という意識を変える。
・寄付をする側の意識を醸成しようということに課題を置きがちであるが、助成を受ける側の意識を変えることに重点を置きたい。
・募金をする方々の気持ちを知ってもらう。
・助成金の説明会を工夫して開催する。
・共同募金が今変わっていくことを伝える。

3．助成団体の活動を見る

・実際に活動しているところを知る。
・市民に伝えていくためにも活動を知っておくこと。
・見ることで活動者も頑張られる。
・ひとつ一つの活動を見極めることが大事。実際見てみると申請書だけではわからないこともわかる。
・良い活動には感謝の気持ちを伝える。活動を支えていくためにも必要。
・活動状況を把握することは大切。
・報告書だけではわからないことを見極めることが必要であり、既得権感覚を変えることにも繋がる。
・各申請団体の活動内容や活動成果を知ることは必要。

4．面接する（審査委員と申請者が出会う場）

・活動状況を見学するだけでなく、簡単な面接をする。
・申請する時には面接をさせてもらい、審査をさせてもらうことが必要。
・書面だけでなく簡単な面接をする。
・助成金の説明会をしっかりして、申請時は書面だけでなく簡単な面接もしていくことが必要。
・面接方法として申請団体に集まってもらい郵送していた決定通知を各地域で授与式をして渡す。

・共同募金の説明や地域の課題を知ってもらった上で決定通知を渡す方法はどうか。

5．公開プレゼンテーション

・審査員と申請者が出会う場とする。
・助成申請団体が活動発表する場。また、そのことを地域の人は知ることができる場になる。
・地域が一堂に会する場が必要。
・地域性もあり公開プレゼンが良いのか分からない。

6．社協の地域福祉推進計画に特化、重点化する

・社協の地域福祉推進計画で地域福祉課題（高齢者福祉だけでなく子どもを虐待してしまうお母さんを救うことなど）に手が届く共募助成に変えていく必要がある。

7．見守りネットワーク活動の助成 →期間拡大で実施する

・出来るようにしたい。

8．助成団体支援

・助成金申請書の書き方など口頭で丁寧に説明すれば高齢者団体も助成を受けられる。

9．助成金受領者との連携

・助成団体が街頭募金など具体的な活動に協力してもらうだけでなく、助成金を受けて活動する人たちの事業を発表してもらえる場をつくる。
・市民の方に助成団体の活動を知ってもらう。広い意味での連携が必要。

10．助成団体へ継続フォロー

・お金を渡したら関係も終りではない。

【広　報】

1．地域に７０％還元する・地域に戻る

・地域で使われる募金であることを伝える。
・アピールしていく。
・今まででではこのことが抜けていた。
・繰り返し、繰り返し伝える。
・サブリミナル効果のように寝ても言えるくらい伝える。
・伝えるにはクリエイティブの力が必要。

2．行き先を伝える

・どんなことに使われているのかを伝える。
・地域の中でどこに行ったのかを伝える。

・今から募金するお金が何に使われるかをきっちり伝える。
・書いているように使われていないと思っている市民も多くいる。
・美しい言葉がいくら書いてあっても信頼がなかったら伝わらない。

3．子どもや若者を取り込めるアイデア広報

・インパクトのある広報（プランジャパンやユニクロのチラシを参考にする）
・テーマ型や地域の課題を広報する。
・忙しく働いている世代に目を引く広報が必要。
・インターネット上の方が若者は良いのか。
・今は世帯単位での募金が多いけれども、子どもや若者たちに共同募金の大切さを伝えていく。

4．成果を生の声で伝える

・短くても良いので頭に残る広報。
・高島の無線は使いにくくなっているが、その辺を工夫してもらいたい。
・高齢の方も段々と文章が読みにくいし、より多くの方に広報するには無線が一番。
・例えば１分間エピソードなどを伝えるなど。

5．パートナーミーティングの開催

・寄付者と助成先、両方の立場の方が話し合える場が必要。
・当事者が一堂に会する場が必要。
・いろいろな方に知っていただく良い機会。

6．助成を受けて活動する団体が、寄付者へ「ありがとう」を伝える

・法人募金の礼状に同封する。
・ありがとうメッセージを生の声で伝える。
・手書きでメッセージをダイレクトに伝えていく。
・手紙が良いのか検討の必要があるが、エピソード（例えば具体的にこんなことがうまれた話など）を伝えることは効果がある。

7．福祉学習

・ありがとう運動をすると生徒だけでなく、先生も共同募金を理解される。
・福祉学習に共同募金の啓発プログラムを増やす。
・子どもたちへ社会貢献、寄付文化がわかるので最初にやった方が良い。
・今は視覚障がいのある方、聴覚障がいのある方が主になっているがもっと全体をみる福祉学習ができたらと思う。
・小浜で学んだいろいろなことを学校でできたら良いと思う。
・たくさんの時間はとれなくても学校と打合せの時に話したい。

８．イベントで伝える

・市内で人が集まるイベントで広報していく。
・すでにあるイベントの機会を活用する。

９．地域の課題が何なのかを具体的に伝える

・それに対しての募金を集める。
・高島をどう良くしていくのか。課題をしっかり伝えていく。

10．広報誌

・社協の広報誌「しふくのふくし」を多くの方が見ている。
・広報誌ボランティアグループの紹介で共同募金を利用して活動していることを知らせていく。
・あえて社協広報ではなく共同募金だけの広報誌を出しても新鮮ではないか。
・広報誌以外でも広報していく。

11．共同募金について具体的に説明

・共同募金は「よくわからないけれど世界の何か良いことに使われている」と、昔からあるのに何となくそういうイメージがある。
・共同募金をしっかり知ってもらうことに労力を割かなければならない。
・いろんなところで話をして広報していくこと。

１２．媒体選定の検討

・広報で一番の悩みどころは媒体。
・媒体を増やす。
・限られた財源の中で媒体選考の検討が必要。
・口コミの力はすごい。
・広報車の利用。

１３．たかしま募金デーを設ける

・大々的にキャンペーン日をつくる。
・今日は何回も共同募金の旗をみる。共同募金という言葉を聞くなど交通安全週間のようなインパクトがある１日をつくる。
・助成団体が一斉に運動に負担感なくできるように１日で良いのでつくりたい。

じぶんの町を良くするしくみ。
赤い羽根共同募金

３．期間拡大モデル事業「赤い羽根たかしま見守り募金」の取組みについて（報告）

Ⅰ 高島市における期間拡大モデル事業の考え方
～２つの計画と２つのモデル事業の連携～

◆地域福祉推進計画に基づく見守りネットワーク活動の推進

○高島市社協が、平成 22 年度からの５か年計画として、住民やボランティア、NPO、医療福祉関係者、行政とともに策定した高島市地域福祉推進計画では、見守りネットワーク活動の推進が、地域から孤立をなくすための取組みとして、公民協働で取り組む重点事業に掲げられました。

◆地域の新たな支えあい基金モデル事業の受託

○計画の初年度（平成 22 年度下半期）に、中央共同募金会から「地域の新たな支えあい基金モデル事業」（以下、基金モデル事業）に取り組む機会をいただき、見守りネットワーク活動を様々なノウハウや資金面での支援を受けて、進めていく体制ができました。

○基金モデル事業は、地域から孤立を無くすために、既存の取り組みを活かしつつ、多様な協働関係を構築し、課題を抱えた人を漏れなく見守る体制づくりを進めるとともに、その活動財源の開発も求められていました。

◆地域の課題解決を進める共同募金としての役割

○一方、高島市共同募金委員会では、本アクションプランを平成 24 年度に策定し、「高島市における共同募金改革の基本的な視点」（本冊子８P）の中で、社協の地域福祉推進計画と連携して、解決すべき課題を明確にした募金や助成をおこなっていくこととしました。また、旧来の方法にとらわれない、新たな募金手法を積極的に開発することも明記しました。

○とりわけ、少子高齢化、単身世帯の増加を背景とした孤立の問題は、高島市における目下の重点課題であり、見守りネットワーク活動が多くの市民、関係者が求めている活動であることから、共同募金がその推進財源を広く市民に呼びかけ、課題解決に主体的に取り組む住民組織を応援していくことは、改革検討委員会においても必要なこととされました。

◆見守りネットワーク活動を応援する新たな募金手法の開発

○そこで、平成 24 年度から「新たな募金手法の開発に向けた改革モデル事業」（以下、期間拡大モデル事業）の１次募集（平成 24 年、25 年度）を活用して、見守りネットワーク活動の推進財源の開発を進めることになりました。

○基金モデル事業で求められた活動財源を、期間拡大モデル事業による、見守りをテーマにした新たな募金手法により、従来型の方法ではない、新たな募金パートナーとの協働をつくっていくことを目指しました。

社協と共同募金が両輪となった地域福祉の推進

高島市社会福祉協議会

高島市地域福祉推進計画

平成 22 年度～

推進目標１の重点事業

「見守りネットワーク活動の推進」

人口減少、少子高齢化、世帯の縮小、単身化にともなう社会的孤立の問題への対応として、区・自治会の単位で見守りネットワーク活動を推進。

連 携

高島市共同募金委員会

高島市共同募金改革

アクションプラン　平成 25 年度～

改革の基本的な視点（抜粋）

●地域の課題を明らかにして、解決のための活きたお金の使い道を考える（地域福祉推進計画との連携）

●新たな募金手法の積極的開発

地域の新たな支えあい基金モデル事業

社会的孤立・孤独の状態にある人が急増する中で「既存の取り組みを活かしつつも、新たな見守り・支えあいの仕組みおよび財源確保の枠組みをつくっていく」ことが求められる。

期間拡大モデル事業

（新たな募金手法の開発に向けた改革モデル事業）

・地域課題解決のため、運動期間を拡大し、募金増を果たす。

・募金増を図るための新たな募金手法の開発。

・活動団体、寄付者、企業、市民との新たな協力関係の構築。

●地域課題解決のための、住民主体の見守りネットワーク活動を推進する、地域で循環する財源の開発

●従来の「お願い型」ではない募金手法による、新たな募金パートナーとのつながりの強化

赤い羽根

たかしま見守り募金

Ⅱ 期間拡大モデル事業「赤い羽根たかしま見守り募金」の実施

1．期間拡大モデル事業「赤い羽根見守り募金」のコンセプトづくり

高島市共同募金委員会は、滋賀県共同募金会と連携し、滋賀県において、期間拡大モデル事業に先行して取り組む唯一の市町として、普及性、普遍性のあるモデル的取組みを進めていくことが求められました。

【基本的な考え】

●高島市で必要とされている、少子高齢化、単身世帯の増加による生活課題の顕在化や、孤立の問題に対して、見守りネットワーク活動による住民主体の活動をさらに広げる。

●また、住民だけでは解決が難しい生活支援サービスなど、多様な主体の協働による重層的な見守り、支え合いの仕組みをつくっていく。（基金モデル事業）

●さらに、見守りネットワーク活動の財源確保の仕組みを構築するとともに、共感に基づく寄付を通した、見守りネットワーク活動への参加の輪を広げ、関心層を全市のみならず、高島市に関わるあらゆる人や団体に広げていく。（期間拡大モデル事業）

【新たな募金手法として考えられること】

①企業、商店との新たなつながり

・先行事例のような寄付つき商品の開発や、クーポン、自動販売機による寄付などの手法は、法人募金が減少している中、企業、商店との新たなつながりを構築できる。

・企業の社会貢献として、社員ボランティアによる生活支援活動や、本業を活かした見守りなど、高島市で見守りネットワークを重層化していくためにも、企業の理解や共感は必要である。

②寄付者の考え方

・見守りネットワークに取り組んでいる区・自治会が、助成を受ける側から、自分たちの問題として運動をリードする側にも回っていただくことが大事。寄付する人と助成を受ける人の垣根を無くすことを目指していく。

・高島市内の住民だけでなく、市外に出ている人、例えば、見守り対象者となる高齢者の子ども世代や、高校を卒業して進学や就職で都会にいる若者などが、関心を持ってもらえるようにしたい。

③運動としての共同募金（見守りキャンペーン）

・通常の赤い羽根募金、歳末助け合い募金の後に、また募金となると反発があるかも知れない。それだけに、募金テーマの明確化と募金手法の違いを鮮明にしておく必要がある。

・見守りネットワーク活動は、高島市の地域福祉を推進する基盤となる取組みである。見守りネットワークに特化した募金とするのは、単に財源を集めるだけでなく、共同募金の運動性を活かした見守りの必要性を地域に訴えていく役割もある。

2．期間拡大モデル事業連絡会への参加

日　程	会　議　名	会　場
平成 24 年７月 12 日～13 日	期間拡大モデル事業　説明会	広島県広島市
平成 24 年 10 月 11 日～12 日	期間拡大モデル事業　第１回連絡会	滋賀県高島市
平成 25 年２月 14 日～15 日	期間拡大モデル事業　第２回連絡会	山口県山口市
平成 25 年６月 28 日	期間拡大モデル事業　説明会・連絡会	東京都
平成 26 年１月 14 日～15 日	期間拡大モデル事業　H25 キックオフ連絡会	東京都

この会議では、本モデル事業に取り組む全国の都道府県共同募金会、市町村共同募金委員会等の担当者が集まり、新たな取り組みを進める上での課題の共有をおこない、アドバイザーの皆様や他県職員からの助言や多様な視点を学ぶことで、高島市の見守りネットワーク活動を応援する「たかしま見守り募金」による財源開発のあり方を考える機会となりました。

3．赤い羽根たかしま見守り募金のプログラム

（1）募金百貨店プロジェクト

募金百貨店プロジェクトとは、多様な企業と赤い羽根が一緒に三方よしの寄付つき商品・企画をつくり、赤い羽根が募金の百貨店になろうというプロジェクトです。山口県をはじめ、新たな募金手法として注目されはじめた、この取組みを県内でいち早く取り組むことにしました。

①企業・商店の社会貢献セミナーの開催

新たな募金手法であり、企業関係者にとっては目新しい社会貢献の方法である寄付つき商品について、市内の企業関係者に案内をおこない、みんなで学ぶ機会をつくりました。

事　業　名	日　程	会　　場	参加者数
役職員向け寄付つき商品のつくり方講座	H25 年７月 16 日	新旭総合福祉センター「やすらぎ荘」	市内企業３社、県内共同募金関係者計 49 名
企業・商店の社会貢献セミナー（寄付つき商品のつくり方講座）	H25 年７月 17 日	安曇川ふれあいセンター２階	市内企業 19 社 計 35 名

このセミナーには、山口県共同募金会から先駆的に寄付つき商品プログラムの開発、研究を進めてこられた久津摩和弘さん、有限会社かとうで寄付つき弁当を展開されている部長の坂井孝さんにお越しいただき、山口県での成功事例を余すところなくお話をしていただきました。終了後、参加企業の皆様から、「ぜひ取り組んでみたい」と言うお言葉をいただきました。

②募金百貨店プロジェクト覚書調印式（平成２５年度実績）

第１回覚書調印式	H25年10月15日	15社（38名）下表①～⑮	市役所高島支所２階会議室
第２回覚書調印式	H25年12月　5日	１社（８名）下表⑯	高島市社協　会長室
第３回覚書調印式	H26年１月27日	１社（４名）下表⑲	そば処ひょうたん亭（今津）

セミナー終了後、取り組みを希望された企業、商店を訪問させていただき、寄付つき商品を一緒に企画しました。こうして、平成２５年度は１９社様と覚書調印式を交わすことができました。
（写真右：１０月１５日の合同調印式）

③募金百貨店プロジェクト協賛企業・商店一覧（平成２５年度実績）

企業・商店名	寄付つき商品内容
①　特非)アイコラボレーション高島	名刺１セット100枚入りご注文につき100円を寄付
②タカギ・フーズ㈱	アドベリージュース１本ご購入につき５円を寄付　他
③淡海酢㈲	アドベリービネガー1本ご購入につき50円を寄付
④㈲とも栄菓舗	あど菓みるく１箱ご購入につき10円を寄付　他
⑤㈲ﾗｲｽｾﾝﾀｰﾀｶｼﾏとっと工房	アドベリージャム１瓶ご購入につき５円を寄付
⑥エルブライド寿光苑	うまから紅白鍋（４名以上）ご注文で１人前につき５０円寄付
⑦オオヤマホールディング㈱ 道の駅藤樹の里あどがわ	食用菜種油びわこななしきぶ１本ご購入につき５０円を寄付
⑧コティカフェ	焼栗ケーキ１個ご購入につき５円を寄付
⑨ソエダ㈱	指定インクジェットプリンター用インク １ 個ご購入につき 50 円を寄付
⑩㈲大開建設	民間工事１件ごとに受注額や工事内容により上限５％を寄付
⑪㈲谷仙商店	平板こんにゃく１丁ご購入につき５円を寄付
⑫㈲藤戸工務店	陶板浴入浴券料１回から２０円を寄付
⑬特非)日本理美容福祉協会滋賀たかしまセンター	出張カット、在宅理美容ご利用ごとに料金の１％を寄付
⑭㈲綿庄食品店	日替わり弁当１個ご購入につき１０円を寄付
⑮里山の小さな絵本屋カーサ･ルージュ	絵本１冊ご購入につき１０円を寄付
⑯特非)ｅネットびわ湖高島	指定フェイスブック記事１シェアにつき１０円を寄付
⑰コカ・コーラウエスト㈱	自動販売機２台設置
⑱㈱アペックス	自動販売機１台設置
⑲そば処　ひょうたん亭	そばかりんとう１袋ご購入につき１０円を寄付

（２）郵便局振込用紙による募金

赤い羽根たかしま見守り募金専用の郵便局振込用紙（振込手数料無料（免除））を３，０００枚作成し、市内の郵便局１５局に設置していただくと共に、期間中おこなわれた市内の研修会・フォーラム等で配布し、募金協力を呼びかけました。さらに高島市医師会や、高島市に所縁のある、岩手滋賀県人会、高島高校同窓会藤陰会東京支部にも配布させていただきました。

（３）見守り専用募金箱の設置

市内の公共施設や店舗等の協力を得て、前年度比２倍の市内 161 ヶ所に見守り募金専用募金箱を設置しました。設置ご協力場所には、ポスターの貼り出しや、のぼり旗の掲示についてもお願いし、市内の様々なところで、たかしま見守り募金が目に留まるようになりました。

また、他店の募金箱設置を見た方が「うちでも協力するよ」とお申し出いただいたお店もあります。

（４）街頭募金

安曇川高校生、高島高校生のボランティアによる街頭募金を３回実施する予定でしたが、冬期の荒天が続き１回しか実施できませんでした。しかし、高校生が見守り募金の運動に参加していただくことで活気があり、多くの大人の方が関心を持っていただけたことは、非常に大きな力になりました。

（５）イベント募金

１０月から３月まで、市内の様々な行事やイベントに参加させていただきました。滋賀県名物の「赤こんにゃく」の製造会社とタイアップして、赤い羽根の形に型抜きをしたこんにゃくをトッピングした「本家赤い羽根うどん」の材料費を除く全額を寄付していただきました。また一緒にミニパンフレットをお渡して共同募金の理解を広めました。

（６）広報活動・ツール

●たかしま見守り募金ロゴ（写真下↓）
　期間拡大モデル事業のアドバイザーの大手広告代理店の方から助言をいただき作成しました。

赤い羽根たかしま見守り募金

●ここで買えます！寄付つき商品ガイド（写真左←）たかしま見守り募金にご協力いただいている、募金百貨店プロジェクト参加法人、商店様の案内パンフレット。

●啓発のぼり旗（写真右→）
募金百貨店プロジェクト参加法人、商店様や、募金箱を設置いただいている商店様などに配布。

●啓発ポケットティッシュ（写真左←）たかしま見守り募金の街頭募金実施の際に使用。

●読売新聞、毎日新聞記事（写真上↑）
たかしま見守り募金について取材をしていただきました。

●街頭募金箱（写真右→）
募金ボランティアの皆さんが、街頭募金をおこなう時に使用。

●広報誌（写真左←）
高島市社会福祉協議会の広報誌「しふくのふくし」５３号で、たかしま見守り募金の特集をおこないました。（平成２５年 12 月発行号）

（7）たかしま見守りフォーラム

平成２６年３月８日　藤樹の里文化芸術会館（参加者数：４３８名）

見守りネットワーク活動の実践報告会として開催するフォーラムで、たかしま見守り募金をアピールしました。

募金百貨店プロジェクト参加企業の方にパネルディスカッションにご登壇いただき、地域の企業としての社会貢献の大切さや、募金百貨店プロジェクトへの今後の展望をお話していただきました。

また、募金ボランティアの安曇川高校、高島高校の生徒さんにも登壇していただき、募金百貨店プロジェクト参加企業より、見守りネットワーク活動者へ直接、寄付目録（平成 26 年 2 月 28 日現在分）が贈呈されました。

●参加者の皆さんの声（アンケート抜粋）

- 見守り募金があるのをはじめて知りました。協力したいと思います。
- 高校生の参加が良かった。若者が高島の取り組みを知り、自分達の活動に活かしていけるというのは素晴らしいです。
- 高校生の協力があった事を初めて知って嬉しかった。折角来てくれたので、一人一人（高校生の）名前を紹介してあげて欲しかった。
- 見守り募金が将来を担う高校生から企業、商店、各区により実施されている事に驚きと皆さんの意識の高さに感心した。今後もさらなる発展を期待し、支援をしていかなくてはならないと感じた。
- 募金は素晴らしいと思いました。
- 企業や学生さんが募金活動をされているのを初めて知った。
- 見守る人を見守る募金活動が出来たこと、大変嬉しいことです。少しでも地域活動に役立てればよいと思って心ばかりの募金をさせていただきました。長い活動をお願いします。
- 企業や生徒たちも一緒に活動され、広く関わり浸透していっており感心しています。先進地として更に頑張って他市町を引っ張っていってください。
- 地域の人、専門職、事業所、企業→募金百貨店、学生さん等、地域で生活するあらゆる人を巻き込んでゆく方法が、大変だと思うけど、明るく楽しそうですばらしいと思いました。

Ⅲ期間拡大モデル事業の成果と課題

本モデル事業の目的は、①地域課題・社会課題解決のために、運動期間拡大を活用して募金増を果たす。②募金増を図るため、新たな募金手法を開発する。③上記を実現させるため、活動団体・寄付者・企業・一般市民と新たな協力関係を構築する。（以上実施要綱より）となっており、①から③に関する赤い羽根たかしま見守り募金の成果と課題を以下のとおりとします。

1．募金の増額に関する評価

募金実績額：1,335,536 円

目標額 150 万円に対して▲164,464 円　達成率 89%

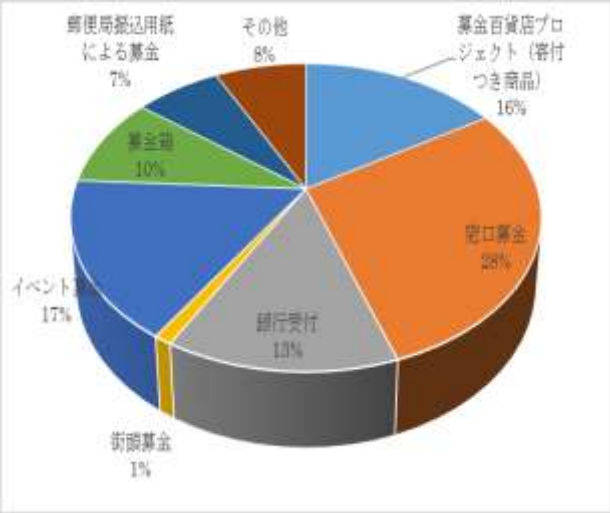
＜内　訳＞

募金プログラム	募金額	構成比
募金百貨店プロジェクト（寄付つき商品）	216,930 円	16%
窓口募金	380,143 円	28%
銀行受付	180,000 円	13%
街頭募金	14,000 円	1%
イベント募金	222,836 円	17%
募金箱	127,827 円	10%
郵便局振込用紙による募金	93,800 円	7%
その他	100,000 円	8%
合　計	1,335,536 円	―

目標額の 150 万円には届きませんでしたが、モデル事業として取り組んだ初年度としては、達成率８９%と評価できる募金実績となり、次年度の見守りネットワーク活動財源がほぼ確保できました。

平成 18 年度以降、年々減少していた募金実績額は、平成 24 年度から前年度比でプラスに転じましたが、たかしま見守り募金の実施により、さらに募金額全体の増加傾向が明確になりました。

2．新たな募金手法の開発に関する評価



募金種別で、突出して募金が集まった手法は見られませんでしたが、窓口募金が 28%ともっとも多く寄付をいただきました。

その理由として、平成 25 年９月に台風 18 号による災害が発生し、災害があったことで、改めて地域の見守り活動の重要性に気づいたとのことから、たかしま見守り募金を指定して寄付をいただいたケースが見られます。

また、新たな募金手法として取り組んだ募金百貨店プロジェクトにより、高島市における地域課題解決を図っていくための、地域で循環する財源開発の新たな仕組みができました。しかし、何か決定的な募金手法があるのではなく、多様な寄付者のニーズに合わせた「募金手法のベストミックス」を考えていく必要があるのではないかと考えます。

3．新たな協力関係の構築に関する評価

【企業、商店と活動者のつながり】

募金百貨店プロジェクトに参画していただいた企業、商店と、見守りネットワーク活動者の出会いの場をつくり、顔の見える関係をつくることは、地域課題の解決主体を重層化していく上で重要なことであると考えています。その参考となる、以下のようなつながりを共同募金委員会事務局がコーディネートしました。

●事例：宮野自治会の「おしゃべりカフェ」でのお菓子づくり

見守りネットワーク活動をおこなう宮野自治会では、子どもから高齢者まで気軽に寄れる居場所「おしゃべりカフェ」を毎月開催しています。

そのカフェに、募金百貨店プロジェクトに参画されている、(有)とも栄菓舗の西沢社長と社員の方が参加して「とも栄さんと和菓子をつくろう」と言う企画をおこないました。

菓子職人である西沢社長が実演され、手の中からため息がでるようなきれいな和菓子が生まれるのを興味津々で見守る参加者の皆さん。その後、参加者全員でお菓子作りを楽しみました。宮野自治会の方には自分たちの活動を応援する企業への理解が進み、企業の皆さんにとっては見守りネットワーク活動の活動現場に出向くことで、相互理解が一層深まったようです。

【コミュニケーション機会の広がり】

たかしま見守り募金の運動そのものが、コミュニケーション機会を広げたことは言うまでもありません。先に紹介したように、運動の可視化を図ることを目的として、様々なツール開発に力を入れたこともコミュニケーション機会の創出と理解を深めることにつながっています。

また「本家赤い羽根うどん」によるイベント募金は、年間を通して共同募金や見守りネットワーク活動を知っていただく機会として非常に有効でした。特に若者層と出会う機会が増えたことがイベント募金ならではの広がりであったと言えます。

イベント募金の運営は週末が多く、事務局職員と社会福祉協議会の在宅介護課の職員などがボランティアで参加して実施してきました。住民のボランティア参加を増加していくことは課題ですが、300 人の職員を擁する高島市社会福祉協議会にとって、日常業務として共同募金に関わっていない職員が、イベント募金に関わることで職場内の理解が広がったことも重要な成果と言えます。

インタビュー「なぜこの見守り募金運動に賛同しましたか？」

募金百貨店プロジェクト参加企業
㈲大開建設　代表取締役社長　吉見　大さん

以前より社協が「福祉を通したまちづくり」に熱心であることは感じていました。寄付つき商品のセミナーがあることを知った時、「また、社協（共募）が面白いことを始めるんだな」と思い参加しました。

セミナーに参加して、講師のお話がすんなり理解、共感できました。「本業で儲ける」ということと、共募（募金百貨店プロジェクト）と協働することで町が良くなることは、つながっているということです。地元である高島市の課題に使われる募金であることもわかりやすいと思います。

募金百貨店プロジェクトに参加して、１番変わったのは自分自身です。超少子高齢化になることは漠然と知っていました。今後は、単に寄付するだけでなく、障がい者雇用など企業としての役割も果たしていきたいと思っています。

募金百貨店に参加していることで「信頼できる会社」「何かあったら相談するわ」と言ってもらえることが嬉しい。もちろん家族も応援してくれています。これからもこの取り組みが増えていくといいと思っています。

これからは、募金百貨店プロジェクトに参加している企業・商店同士が、意見交換やアイデアを出し合えるような機会があればと思います。

4．今後の展開としてのまとめ

●地域から孤立をなくす取組みを共同募金の運動性を持って推進する。

高島市における見守りネットワーク活動は、平成 23 年度から 3 年間で 58 の区・自治会が取り組まれるようになり、訪問型の見守り活動やコミュニティカフェなど、ボトムアップ型のバラエティに富んだ活動が広がり、今後も課題を抱えた方の早期発見機能として、また、互いに気づかい合い、助け合える地域コミュニティを創造するために、全市に広げていく必要があります。

さらに見守りネットワーク活動は、地域住民の主体的な見守りを通して、認知症、うつ、自殺、孤立死、ひきこもり、ゴミ屋敷、ひとり親家庭の問題など、社会的孤立を背景とした様々な生活課題に気づき、課題に直面しながらも実践を通した学びを深めていく「市民福祉教育」としての側面を持った活動です。

地域社会から孤立をなくすためには、生きにくさ、暮らしづらさを抱え、制度のはざ間にいる人を支える地域をつくることが必要であり、たかしま見守り募金の運動を通して、より多くの人が問題に関心を寄せ、見守りネットワーク活動に参加していくことを支援するとともに、孤立や孤独の問題を解消する多様な取組みが広がるよう、運動を強化していきます。

●共同募金担当者の専任制および専門性をさらに高める。

高島市社会福祉協議会では、第 1 次高島市地域福祉推進計画に挙げられた「民間財源の増強と有効活用の推進」を具体的に進めるため、平成 24 年度から共同募金委員会事務局職員を専任配置し、共同募金改革を理事、評議員と共に進めてきました。今回、期間拡大モデル事業を受託し、募金運動期間が半年にわたったことで、年間を通して募金運動を推進する事務局体制の強化が不可欠であることをあらためて感じました。

さらに、共同募金として地域の課題解決を図るためには、募金や助成、広報活動をより高度な専門性を持って取り組む必要があります。

そのため共同募金担当職員は、社協のコミュニティワーカーや、住民、ボランティア、NPO、関係機関と連携して地域の課題を明らかにすることや、多様な主体の協働を生み出すコーディネート力、問題を提言して共感による寄付を集めるファンドレイジング(プログラム開発力)、助成団体を支援育成するプログラムオフィサーとしての資質などがより求められると考えます。

じぶんの町を良くするしくみ。
赤い羽根共同募金

高島市共同募金委員会　改革検討委員　名簿（順不同、敬称略）

※平成 26 年５月現在　役職は就任当時のもの

氏　名	所　属（選出区分）
○山本　昇子	高島市福祉のまちづくり推進委員会の代表
出口　　健	マキノぬくもり福祉ネットワークの代表
市川　　清	今津福祉の会の代表
海老澤　文代	朽木住民福祉協議会の代表
拝藤　あい子	安曇川住民福祉ネットワークの代表
◎林　　俊博	高島住民福祉ネットワークの代表
谷　仙一郎	新旭住民福祉協議会の代表
小多　　明	高島市民生委員児童委員協議会連合会の代表
上田　弘美	高島市ボランティア・福祉学習センター運営委員会の代表
中捨　博章	高島市福祉施設協議会の代表
三浦　重利	高島市共同募金委員会　理事会の代表
中村　麻美	高島市共同募金委員会　理事会の代表
戸田　由美	学識経験者（高島市市民環境部市民活動支援課主査）
榎森　清高	滋賀県共同募金会　主任主事　（オブザーバー）

◎高島市共同募金委員会会長　○高島市共同募金委員会副会長

じぶんの町を良くするしくみ。
赤い羽根共同募金

高島市共同募金改革アクションプラン（特別編集版）
平成 25（2013）年度～平成 27（2015）年度
発行：平成 25 年 3 月/平成 26 年 6 月特別編集版発行
高島市共同募金委員会　共同募金改革検討委員会
事務局：滋賀県高島市勝野 215 番地（高島市社協内）
TEL0740-36-8220　FAX0740-36-8221